

位置図  
S=1:50,000

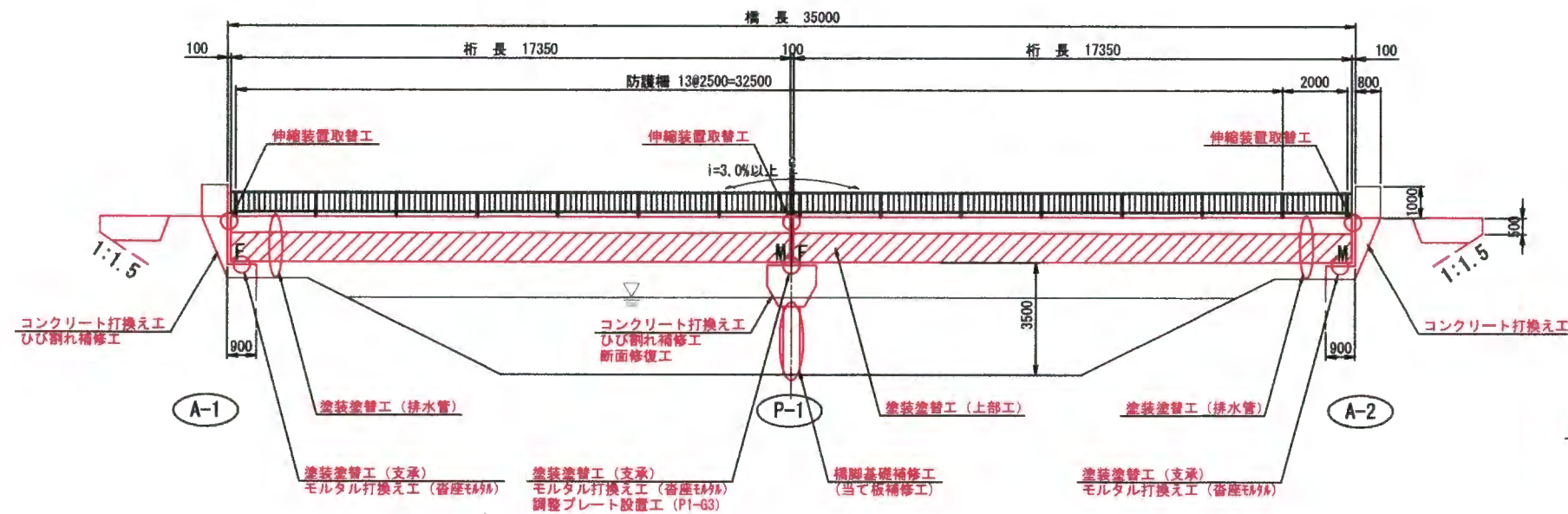
施工箇所  
第1富沢橋

# 補修一般図

## 【第1富沢橋】

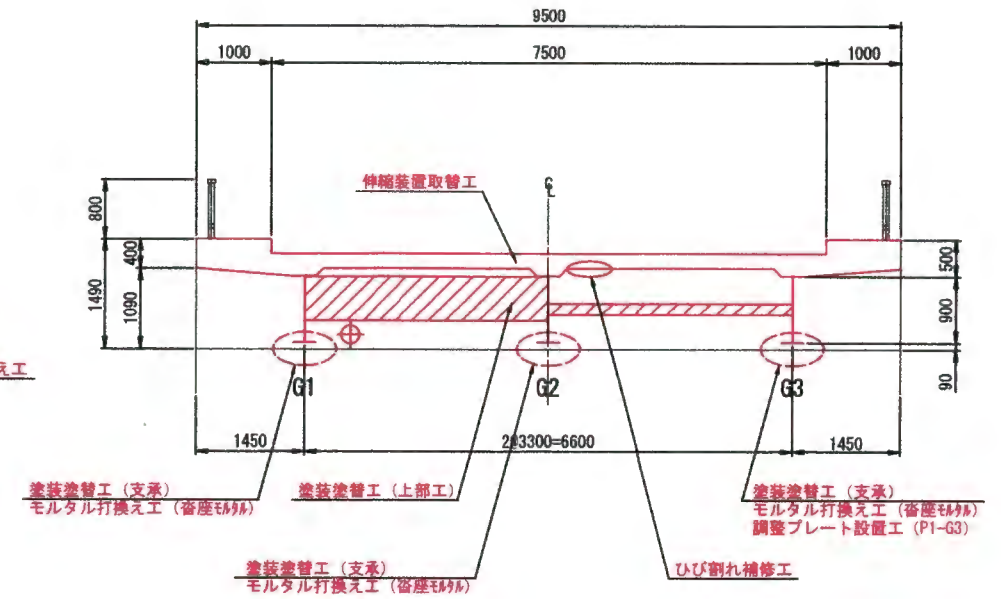
側面図

S=1:200



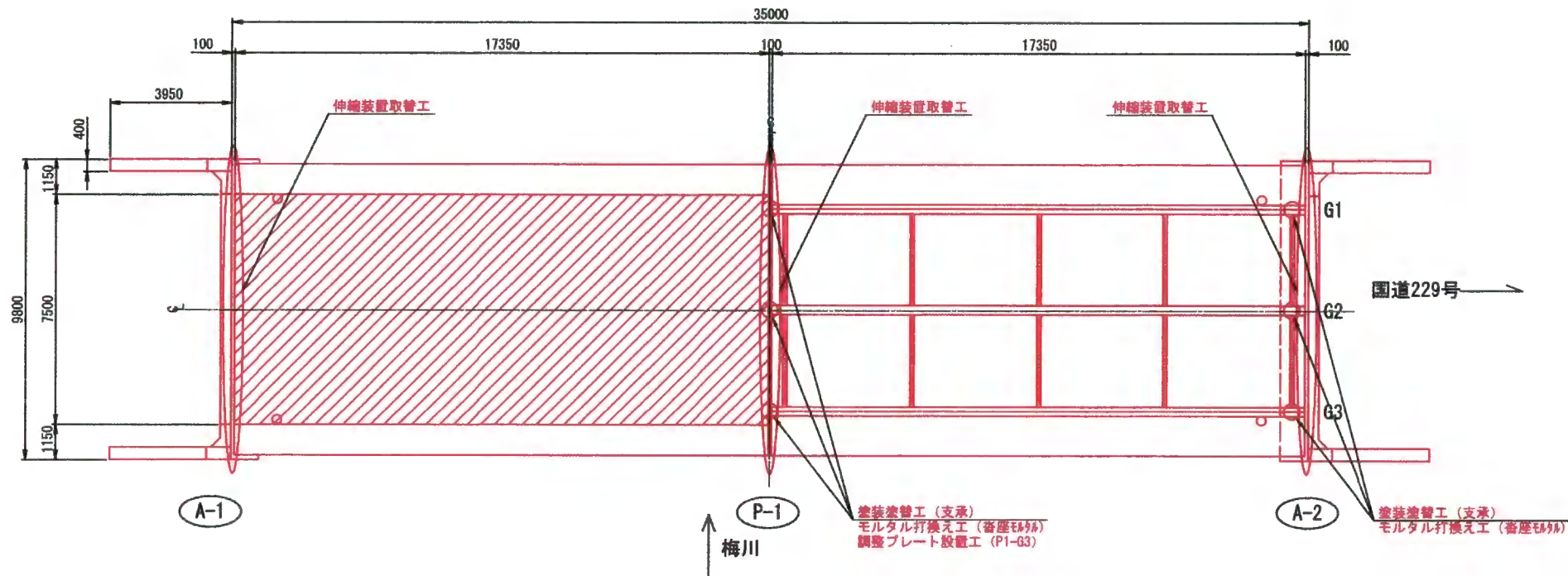
断面図

S=1:100



平面図

S=1:200



補修項目

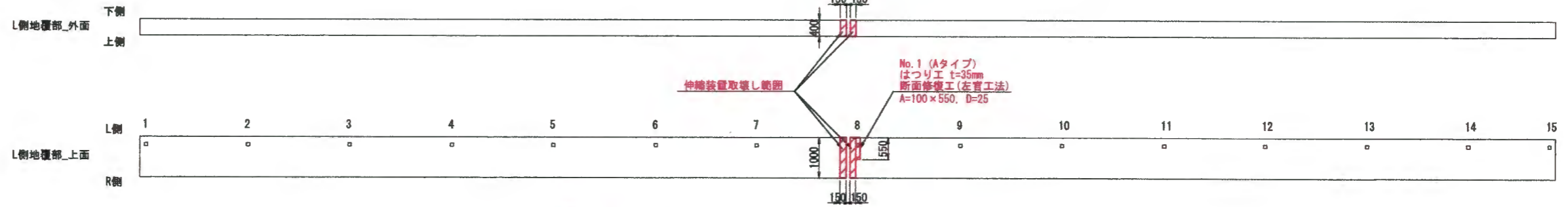
補修箇所		補修内容	
上部工	主桁、横桁	塗装塗替工	Ro-I
	床版下面	ひび割れ補修工	有機系材料
下部工	P-1	断面修復工	ポリマーセメントモルタル
	A-1, P-1	ひび割れ補修工	有機系材料
	A-1, P-1, A-2	コンクリート打替え工	RC-4
	P-1 (バイルベント杭)	橋脚基礎補修工 (当て板補修工)	SM400A
支承	全支承	塗装塗替工	Ro-I
	P1-G3 (EP)	モルタル打換え工	無収縮モルタル
排水管	4箇所	調整プレート設置工	SS400
伸縮装置	A-1, P-1, A-2	塗装塗替工	RC-I
		伸縮装置取替工	突合せ型

工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	補修一般図
作成年月日	令和4年月日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

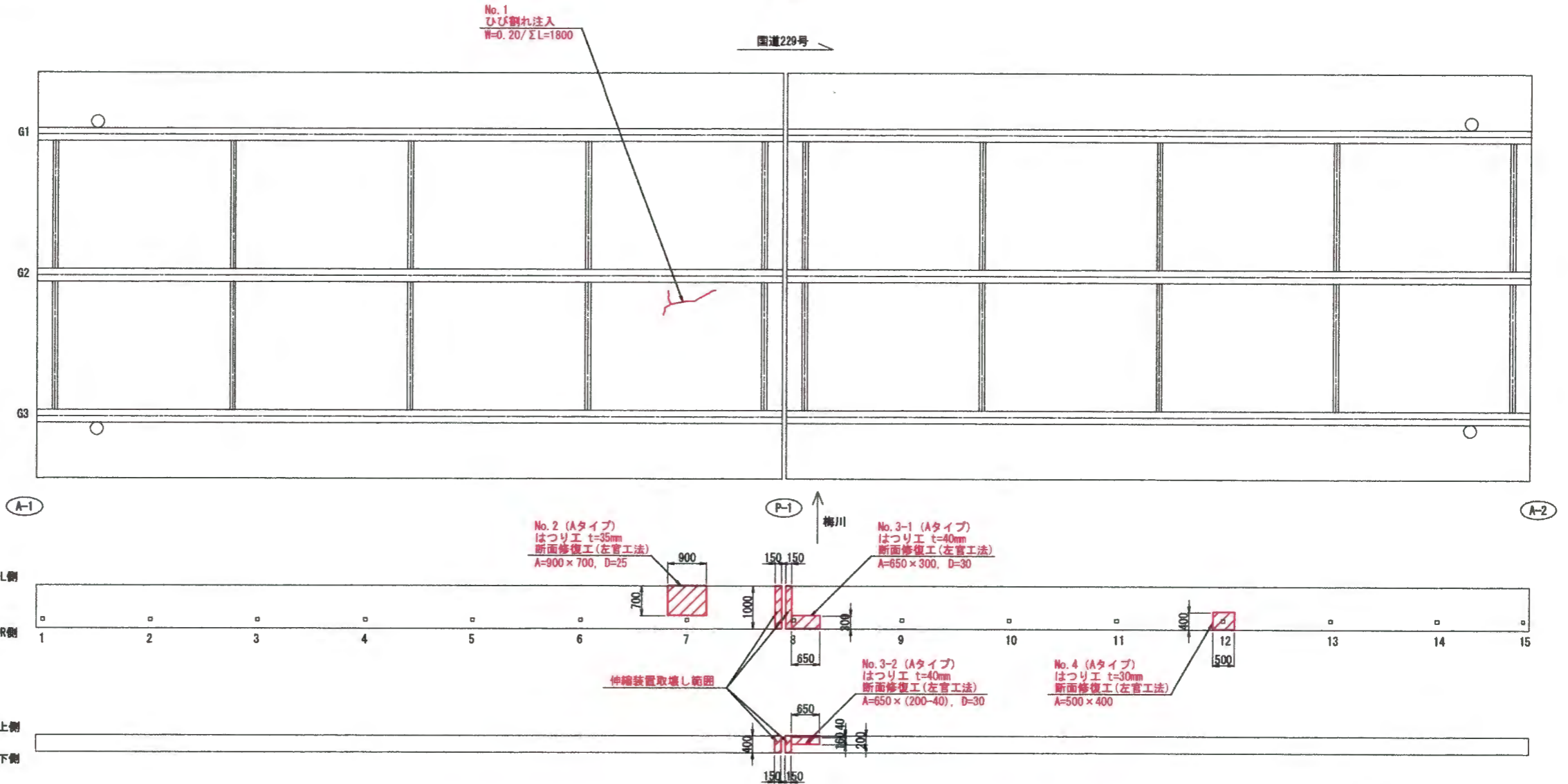
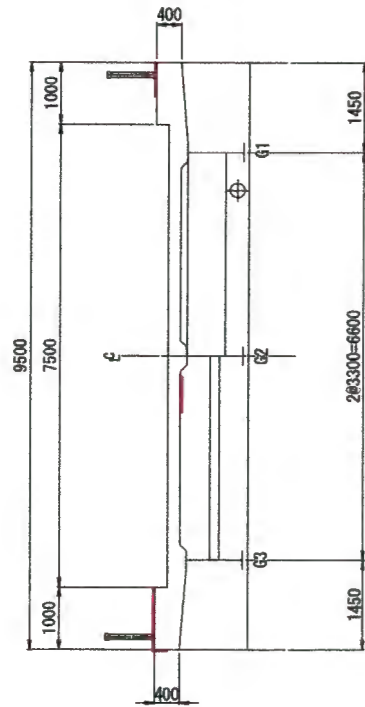
# 上部工補修図 【第1富沢橋】

S=1:60

## 平面図



## 断面図



断面修復数量表  
左官工法 (Aタイプ)

No	L1 (mm)	L2 (mm)	t (mm)	V (m <sup>3</sup> )
1	100	550	35	0.00193
2	900	700	35	0.02205
3-1	650	300	40	0.00780
3-2	650	160	40	0.00416
4	500	400	30	0.00600
合計				0.04194

ひび割れ注入数量表

No	長さL (mm)	幅b (mm)	深さh (mm)	体積V (m <sup>3</sup> )	低圧注入器具 (個)
1	1800	0.20	40	0.0000072	7
合計	1800	-	-	0.0000072	7

※ひび割れ深さは、鋼材の腐食に対するひび割れ幅の限界値として「コンクリート標準示方書（一般の環境）」に示される、 $0.005c$ （ $c$ : ひび割れ幅）による推定値とする。（幅 $b/0.005$ =深さ $h$ とする）  
※体積は、 $V = L(\text{長さ}) \times b(\text{幅}) \times h(\text{深さ}) \times 1/2$ より算出する。  
※低圧注入器具は、 $L(\text{長さ}) / 0.300$ （器具間隔@300mm程度）+1（個）より算出する。

## 特記事項

- ・詳細寸法は現地確認後決定とする。
- ・新たな損傷が発見された場合は、補修の実施について監督員と協議を行い決定すること。

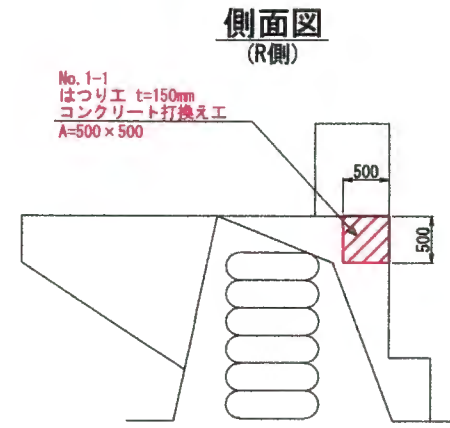
工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	上部工補修図
作成年月日	令和4年 月 日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

# A-1, A-2橋台補修図 S=1:40

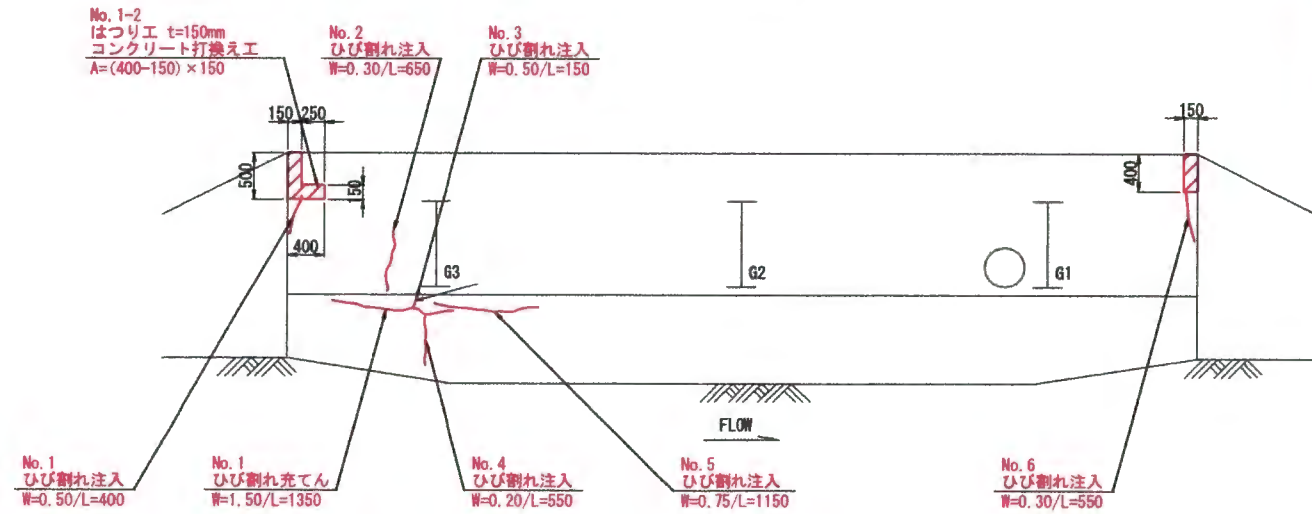
## 【第1富沢橋】

### A-1橋台

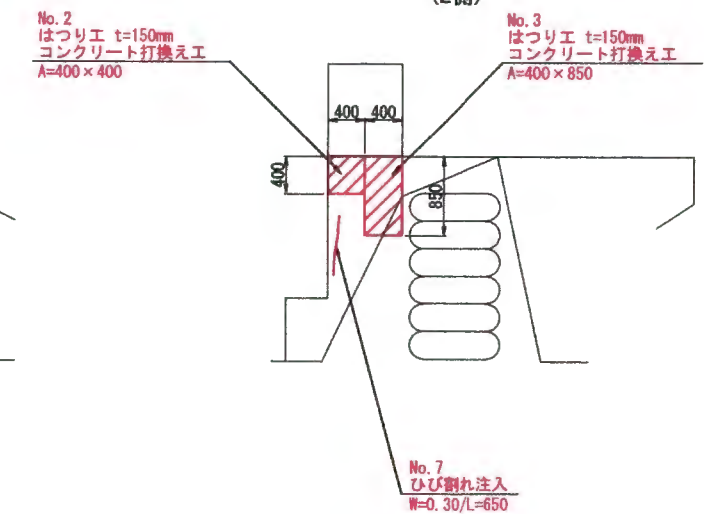
#### 正面図



側面図 (R側)

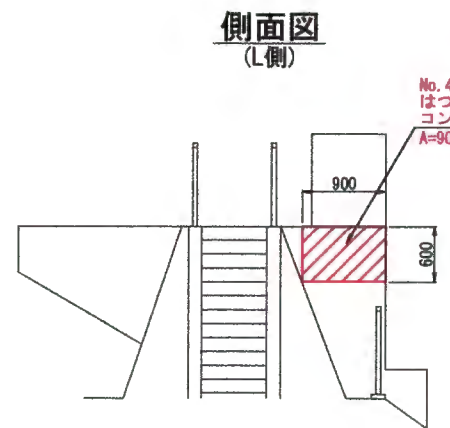


側面図 (L側)

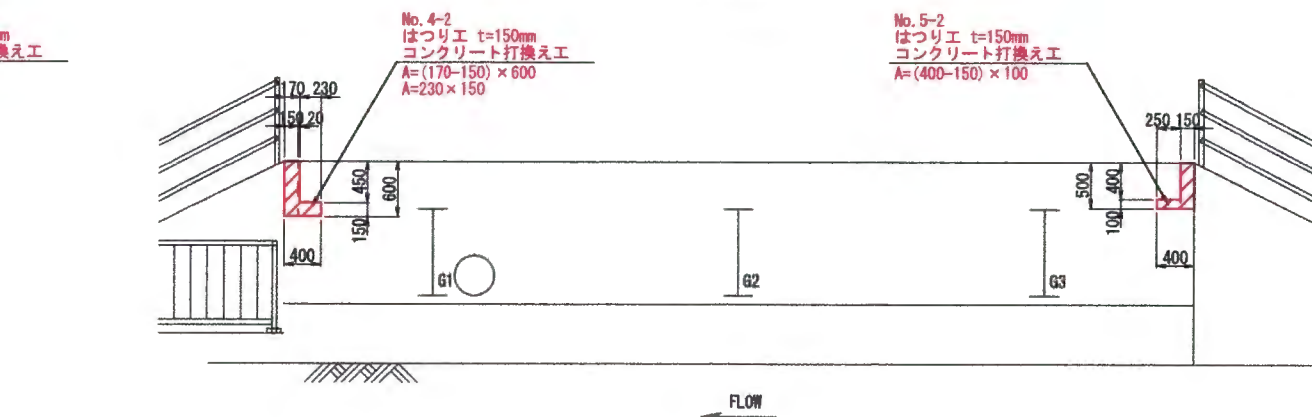


### A-2橋台

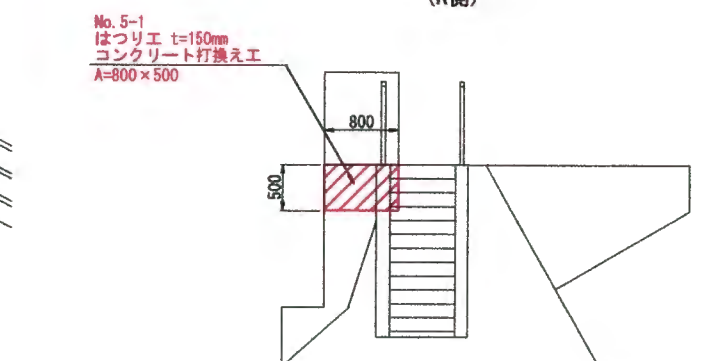
#### 正面図



側面図 (L側)



側面図 (R側)



コンクリート打換え数量表

・A-1橋台					
No	L1 (mm)	L2 (mm)	t (mm)	V (m <sup>3</sup> )	
1-1	500	500	150	0.0375	
1-2	250	150	150	0.0056	
2	400	400	150	0.0240	
3	400	850	150	0.0510	
合計				0.1181	

・A-2橋台					
No	L1 (mm)	L2 (mm)	t (mm)	V (m <sup>3</sup> )	
4-1	900	600	150	0.0810	
4-2	230	150	150	0.0052	
5-1	800	500	150	0.0600	
5-2	250	100	150	0.0038	
合計				0.1518	

ひび割れ注入数量表

・A-1橋台					
No	長さL (mm)	幅 b (mm)	深さ h (mm)	体積V (m <sup>3</sup> )	低圧注入器具 (個)
1	400	0.50	100	0.0000100	3
2	650	0.30	60	0.0000059	4
3	150	0.50	100	0.0000038	2
4	550	0.20	40	0.0000022	3
5	1150	0.75	150	0.0000647	5
6	550	0.30	60	0.0000050	3
7	650	0.30	60	0.0000059	4
合計	4100	-	-	0.0000975	24

※ひび割れ深さは、鋼材の腐食に対するひび割れ幅の限界値として「コンクリート標準示方書（一般の環境）」に示される、0.005c（c：ひび割れ幅）による推定値とする。（幅b/0.005=深さhとする）  
 ※体積は、V=L(長さ)×b(幅)×h(深さ)×1/2より算出する。  
 ※低圧注入器具は、L(長さ)÷0.300(器具間隔@300mm程度)+1(個)より算出する。

ひび割れ充てん数量表

・A-1橋台	
No	長さL (mm)
1	1350
合計	1350

特記事項

- ・詳細寸法は現地確認後決定とする。
- ・新たな損傷が発見された場合は、補修の実施について監督員と協議を行い決定すること。

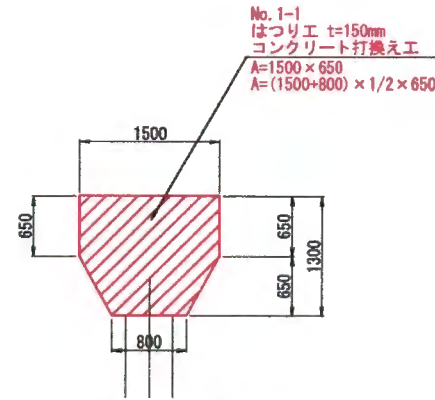
工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	A-1, A-2橋台補修図
作成年月日	令和4年 月 日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

# P-1橋脚補修図

S=1:40

## 【第1富沢橋】

### 側面図 (L側)



コンクリート打換え数量表

No	L1 (mm)	L2 (mm)	t (mm)	V (m3)
1-1	1500	650	150	0.1463
	1150	650	150	0.1121
1-2	250	650	150	0.0244
2-1	1500	650	150	0.1463
	1150	650	150	0.1121
2-2	300	1388	150	0.0625
2-3	1650	400	150	0.0990
	350	988	150	0.0519
3	1200	300	150	0.0540
合計				0.8086

断面修復数量表

#### 左官工法 (Aタイプ)

No	L1 (mm)	L2 (mm)	t (mm)	V (m3)
1	50	50	50	0.00013
2	50	150	50	0.00038
3	300	120	50	0.00180
合計				0.00231

#### 左官工法 (Bタイプ)

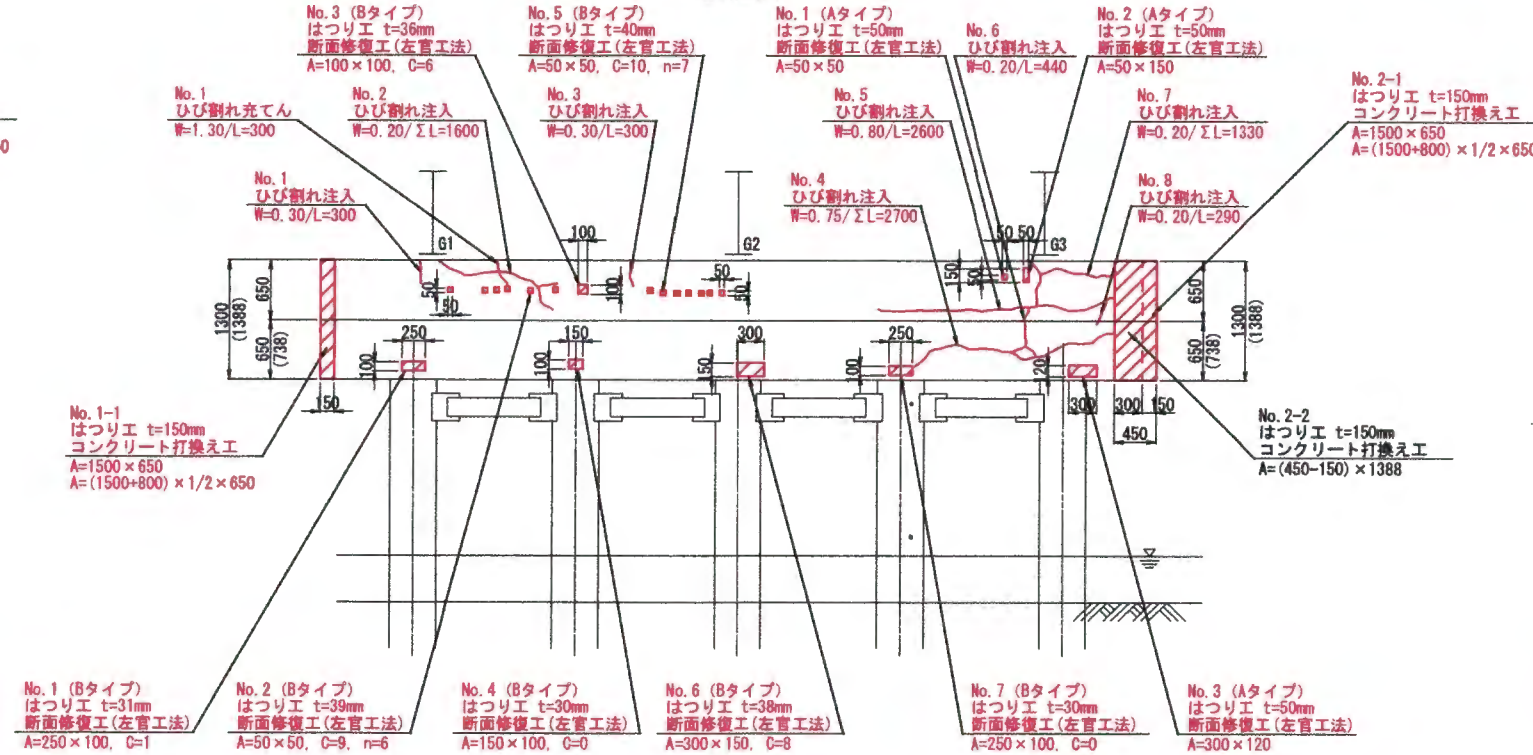
・ポリマーセメントモルタル

No	L1 (mm)	L2 (mm)	t (mm)	V (m3)
1	250	100	26	0.00065
2	50	50	34 × 6	0.00051
3	100	100	31	0.00031
4	150	100	25	0.00038
5	50	50	35 × 7	0.00061
6	300	150	33	0.00149
7	250	100	25	0.00063
8	50	50	25	0.00006
9	100	50	30	0.00015
10	200	50	25	0.00025
合計				0.00504

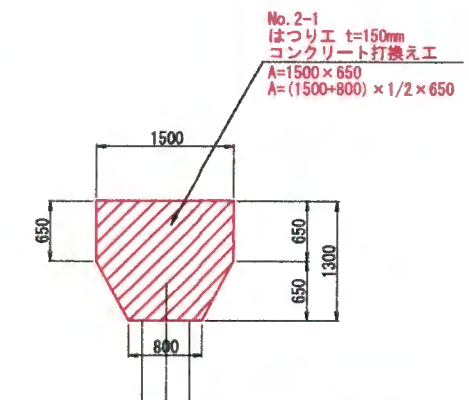
・樹脂モルタル

No	L1 (mm)	L2 (mm)	t (mm)	V (m3)
1	250	100	5	0.00013
2	50	50	5 × 6	0.00008
3	100	100	5	0.00005
4	150	100	5	0.00008
5	50	50	5 × 7	0.00009
6	300	150	5	0.00023
7	250	100	5	0.00013
8	50	50	5	0.00001
9	100	50	5	0.00003
10	200	50	5	0.00005
合計				0.00088

### 正面図 (起点側)



### 側面図 (R側)

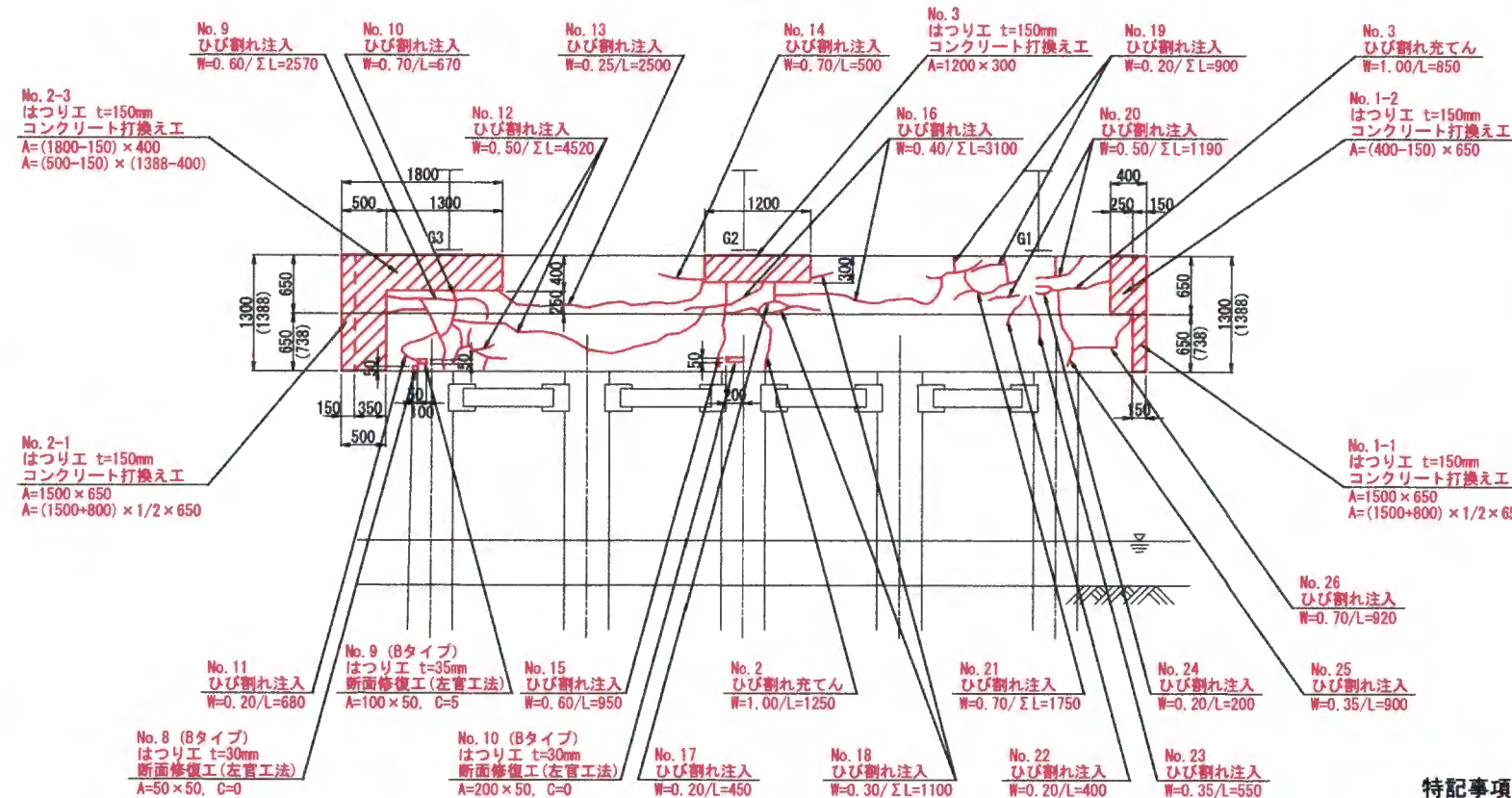


ひび割れ注入数量表

No	長さL (mm)	幅b (mm)	深さh (mm)	体積V (m3)	低圧注入器具 (個)
1	300	0.30	60	0.0000027	2
2	1600	0.20	40	0.0000064	7
3	300	0.30	60	0.0000027	2
4	2700	0.75	150	0.0001519	10
5	2600	0.80	160	0.0001664	10
6	440	0.20	40	0.0000018	3
7	1330	0.20	40	0.0000053	6
8	290	0.20	40	0.0000012	2
9	2570	0.60	120	0.0000925	10
10	670	0.70	140	0.0000328	4
11	680	0.20	40	0.0000027	4
12	4520	0.50	100	0.0001130	17
13	2500	0.25	50	0.0000156	10
14	500	0.70	140	0.0000245	3
15	950	0.60	120	0.0000342	5
16	3100	0.40	80	0.0000496	12
17	450	0.20	40	0.0000018	3
18	1100	0.30	60	0.0000099	5
19	900	0.20	40	0.0000036	4
20	1190	0.50	100	0.0000298	5
21	1750	0.70	140	0.0000858	7
22	400	0.20	40	0.0000016	3
23	550	0.35	70	0.0000067	3
24	200	0.20	40	0.0000008	2
25	900	0.35	70	0.0000110	4
26	920	0.70	140	0.0000451	5
合計	33410	-	-	0.0008994	148

※ひび割れ深さは、鋼材の腐食に対するひび割れ幅の限界値として「コンクリート標準示方書(一般の環境)」に示される、0.005c (c:ひび割れ幅) による推定値とする。(幅b/0.005=深さhとする)  
※体積は、V = L(長さ) × b(幅) × h(深さ) × 1/2より算出する。  
※低圧注入器具は、L(長さ) / 0.300 (器具間隔300mm程度) + 1 (個) より算出する。

### 正面図 (終点側)



ひび割れ充てん数量表

No	長さL (mm)
1	300
2	1250
3	850
合計	2400

### 特記事項

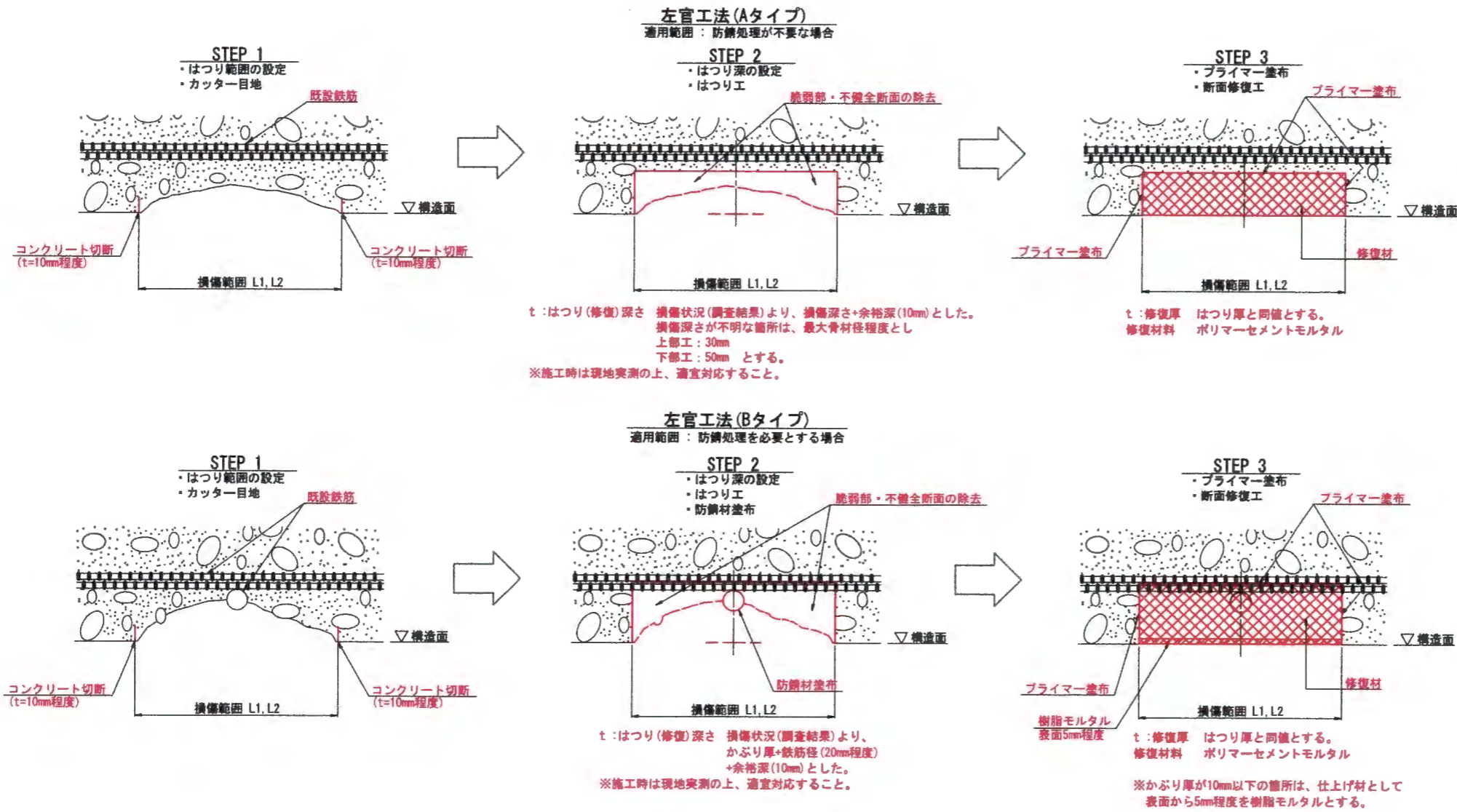
- ・詳細寸法は現地確認後決定とする。
- ・新たな損傷が発見された場合は、補修の実施について監督員と協議を行い決定すること。

工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	P-1橋脚補修図
作成年月日	令和4年月日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

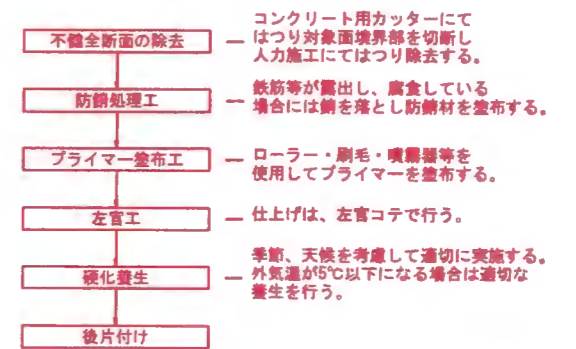
# 補修標準図

## 【第1富沢橋】

### 断面修復工法概要

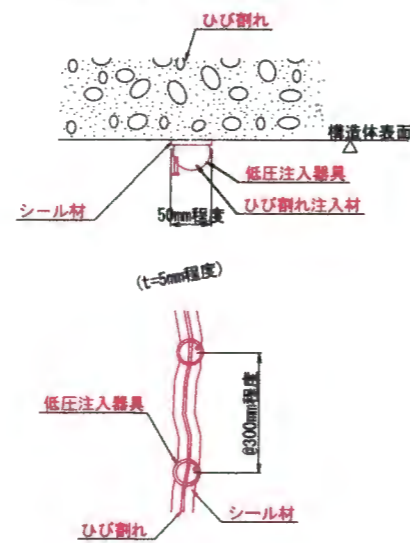


### 施工手順

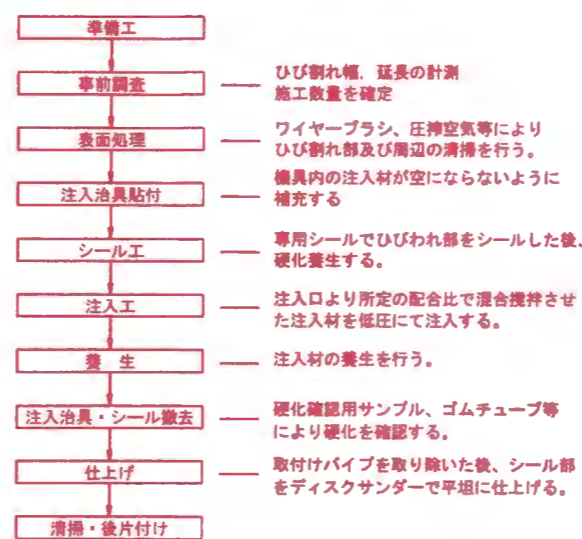


### ひび割れ注入工法概要

#### ひび割れ注入参考図



#### 施工手順

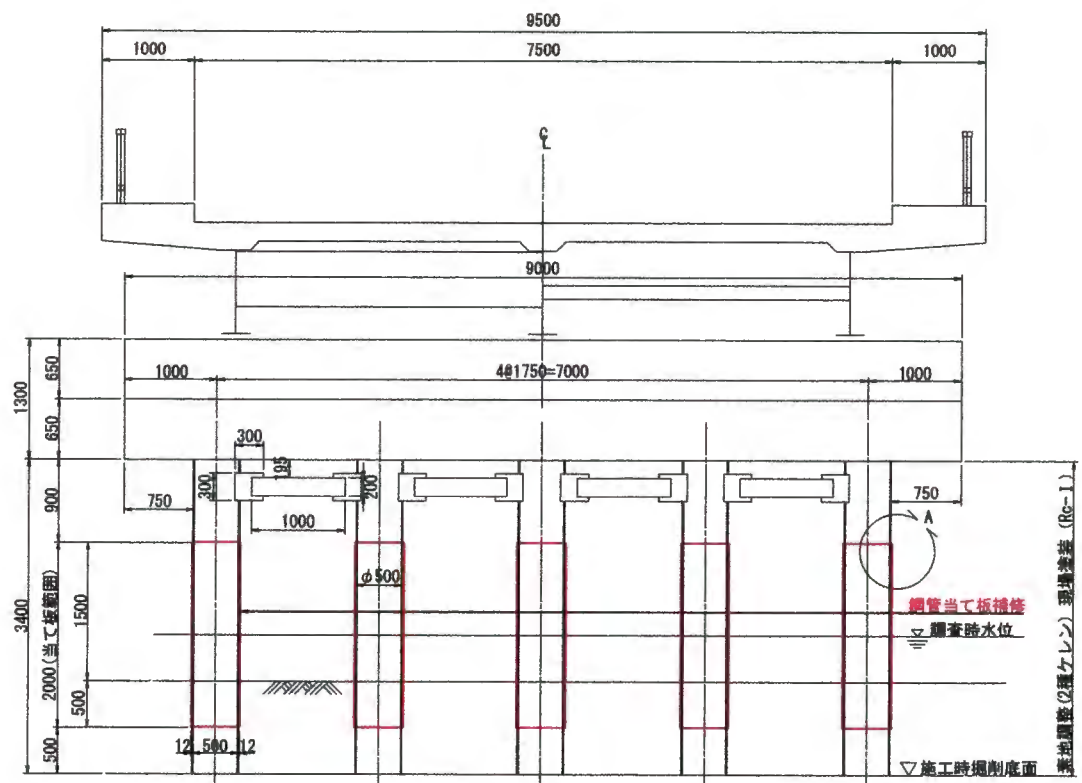


工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	補修標準図
作成年月日	令和4年月日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

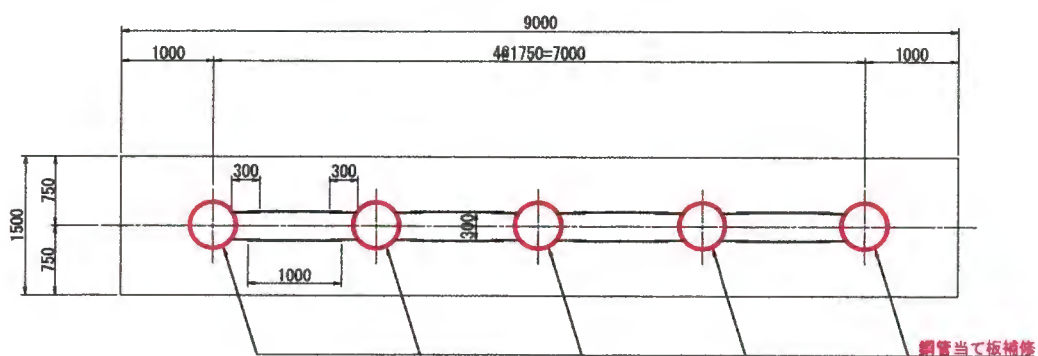
# P-1橋脚基礎工補修図

【第1富沢橋】

橋脚正面図 S=1:40

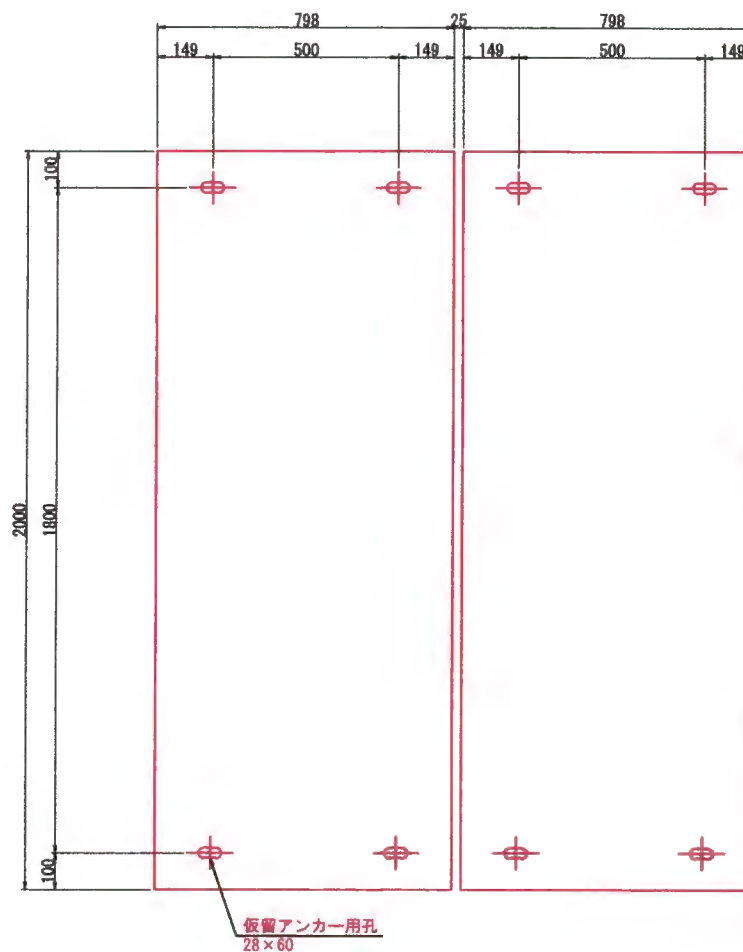


平面図 S=1:40

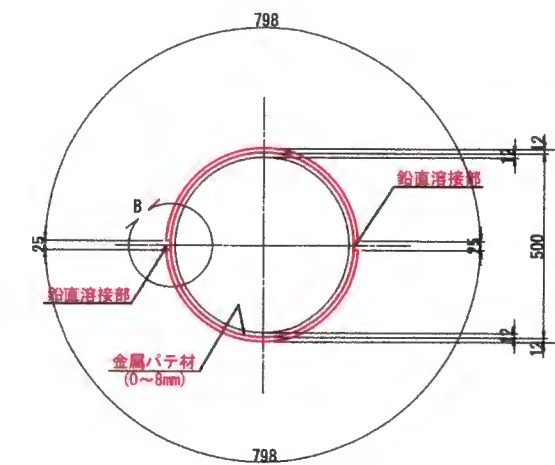


鋼板展開図 S=1:10

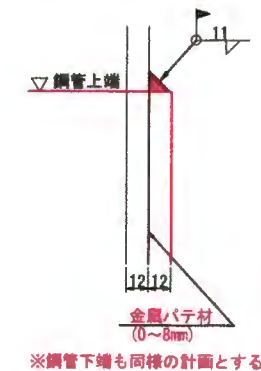
2-PL. 798 × 12 × 2000 (SM400A)



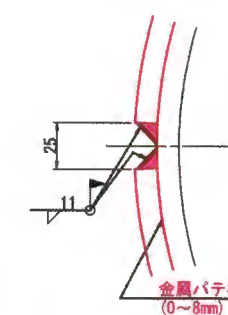
鋼管断面図 S=1:10



A部詳細図 S=1:2



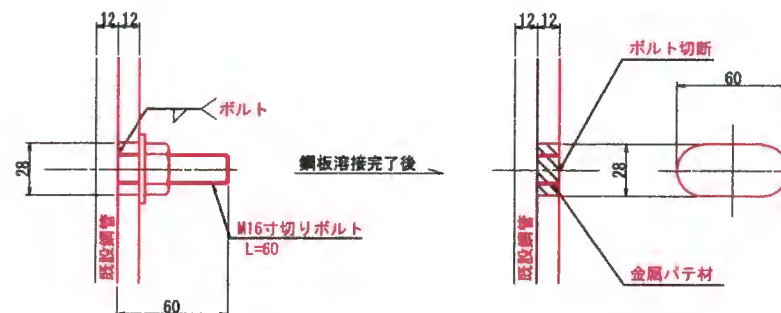
B部詳細図 S=1:2



鋼板仮留ボルト取付詳細図 S=1:2

※ 鋼板1枚につき4ヶ所とする。

8-B.M. M16 × 60 (4.6寸切りボルト 1-M)



### 特記事項

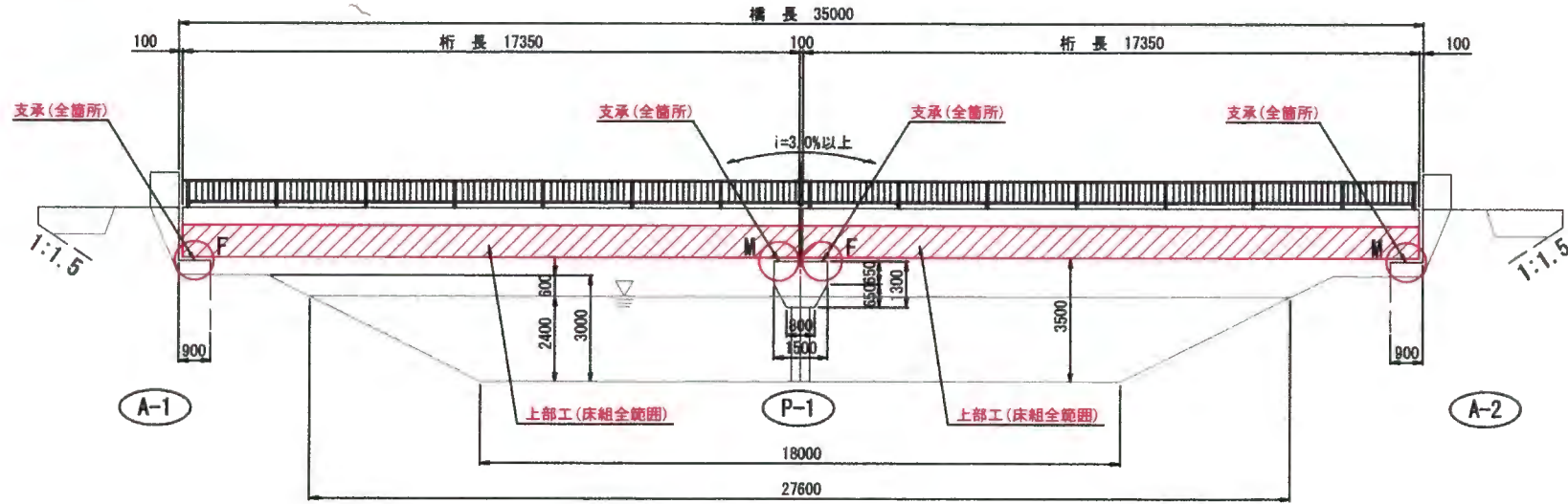
- 鋼板寸法については、現地調査のうえ、既設構造寸法等を再確認し加工する事。
- 鋼板取付けに先立つ素地調整は2種ケレンとする。ケレン方法は剥離剤と電動工具による計画とする。
- 既設断面減少部は金属パテ材による平滑化を行うこと。
- 製作鋼板は工場でのジンクリッチ塗装済として計画する。
- 新たな損傷が発見された場合は、補修の実施について監督員と協議を行い決定すること。
- 既設スパイラル鋼管の当て板部はガウジングを行い、当て板面の平滑化を行うこと。

工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	P-1橋脚基礎工補修図
作成年月日	令和4年月日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

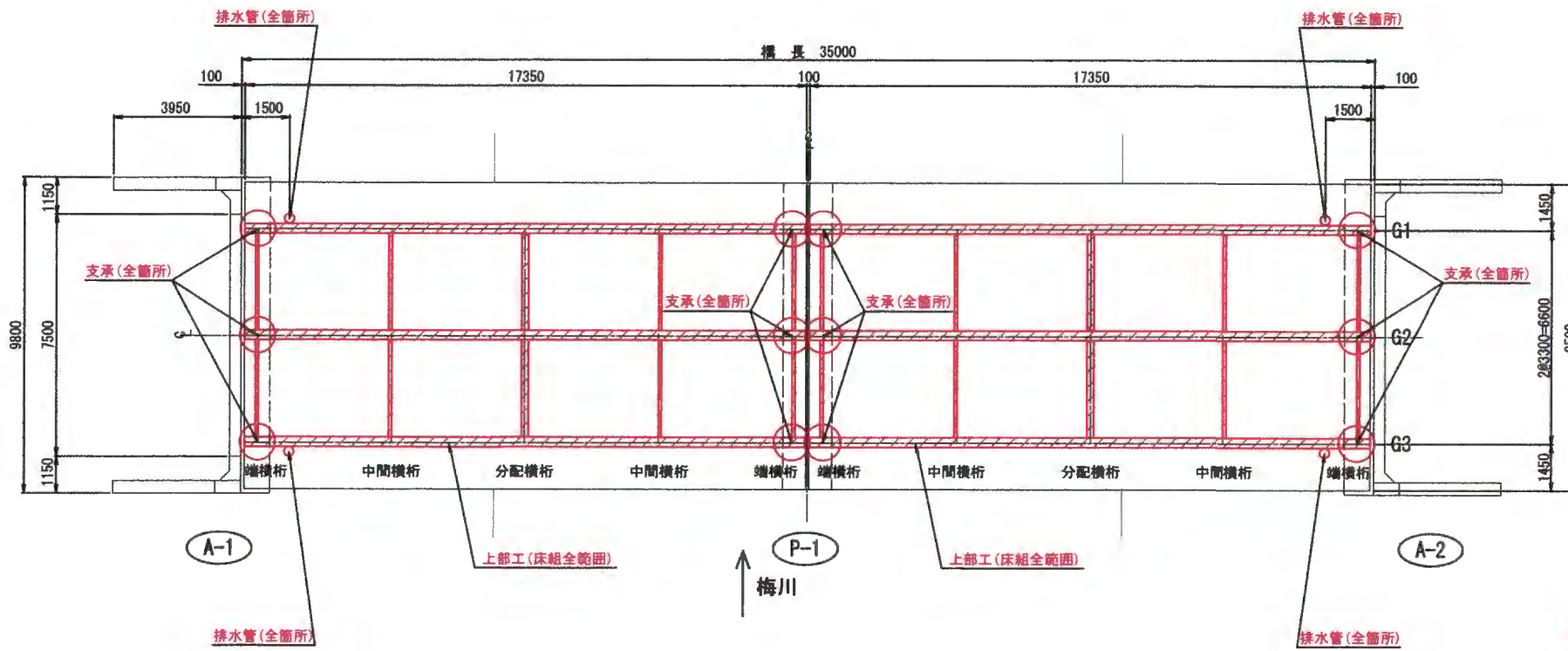
# 塗装塗替図

## 【第1富沢橋】

側面図 S=1:100



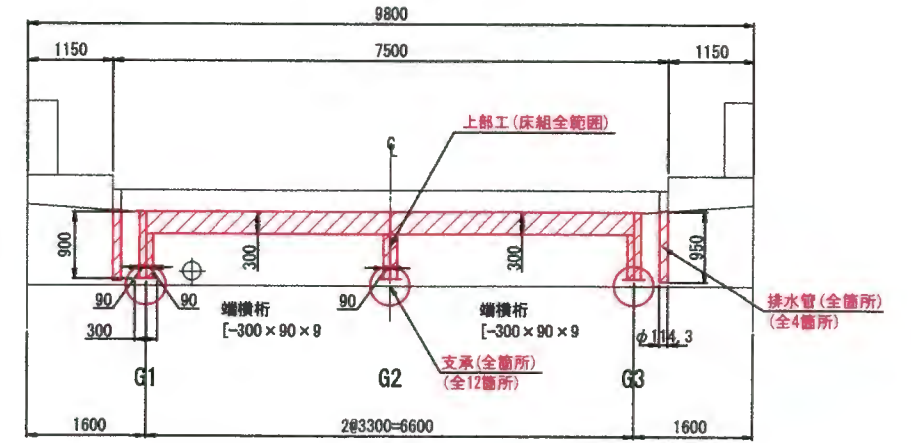
平面図 S=1:100



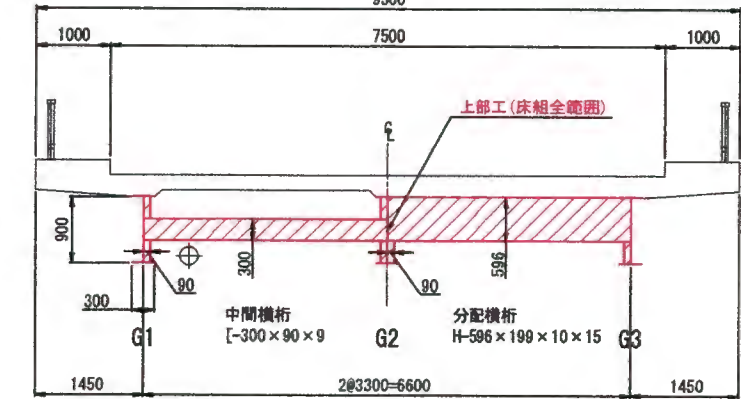
断面図 S=1:100

※主桁サイズより横桁サイズを製品カタログをもとに想定

<桁端部>

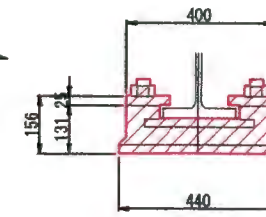


<径間部>

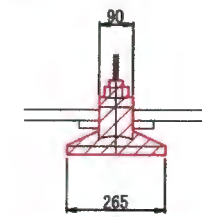


支承 S=1:10

※主桁サイズより支承サイズを製品カタログをもとに想定



塗装面積 A=0.06m<sup>2</sup>



塗装面積 A=0.02m<sup>2</sup>

### 特記事項

- ・詳細寸法は現地確認後決定とする。
- ・新たな損傷が発見された場合は、補修の実施について監督員と協議を行い決定すること。

### Rc-I 塗装系(スプレー)

塗装工程	塗料名	使用量(g/m <sup>2</sup> )
素地調整	1種(循環式エコクリーンプラスト)	
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140

工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	塗装塗替図
作成年月日	令和4年月日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

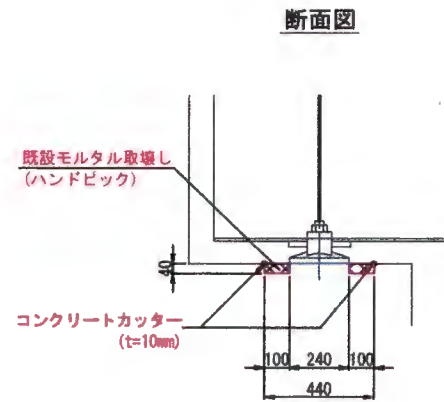


# 支承補修図(1)

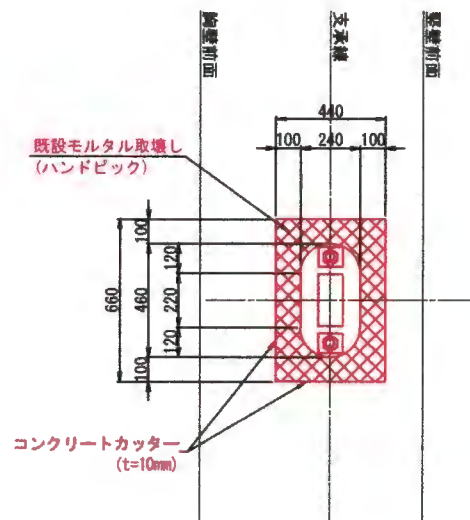
【第1富沢橋】

<A-1, A-2>

## 支承モルタル撤去 S=1:15

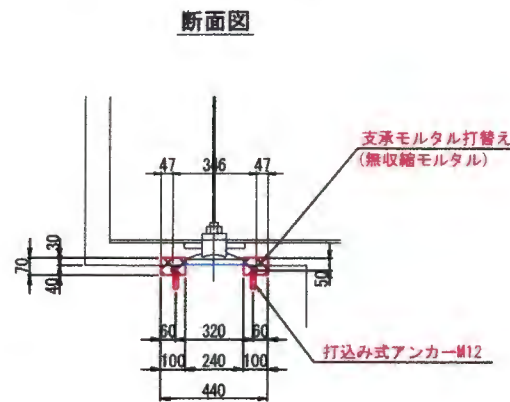


断面図

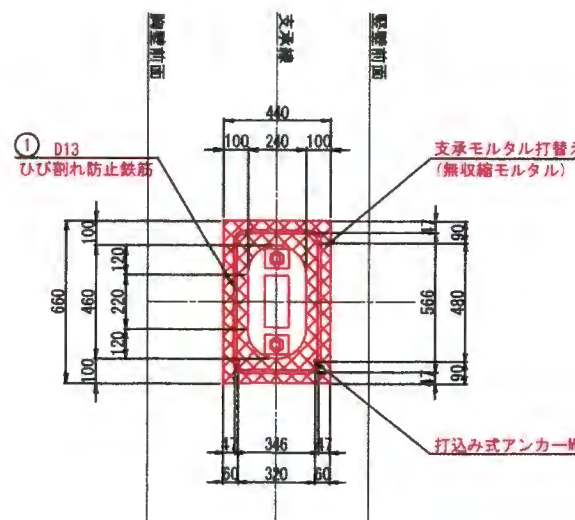


平面図

## 支承モルタル復旧 S=1:15

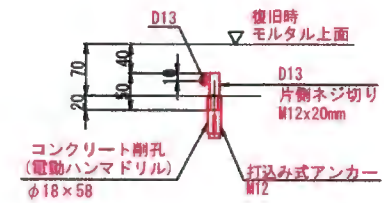


断面図



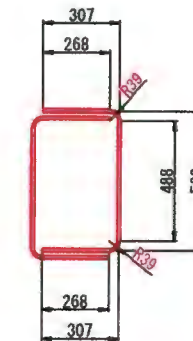
平面図

## 打込み式アンカー詳細図 S=1:5

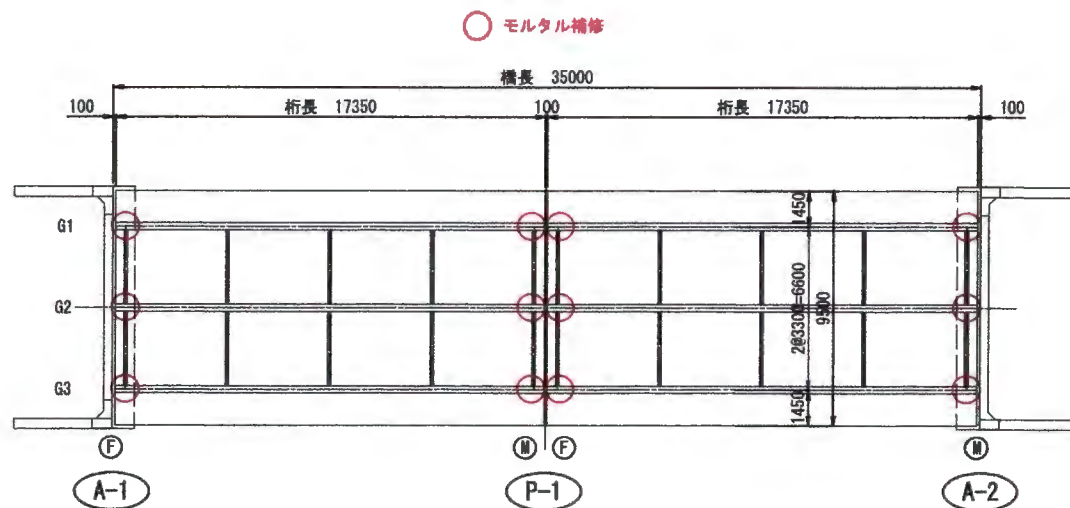


鉄筋加工図  
エポキシ鉄筋

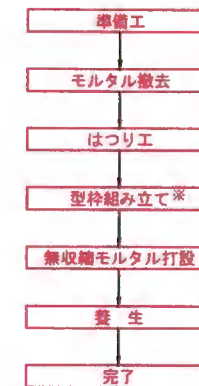
① 2-D13 x 1180 (SD345)



## 位置図 S=1:150



## 支承モルタル打替え工施工手順



\*型枠組立前に、廣食部分は除去すること。

## 特記事項

- ・詳細寸法は現地確認後決定とする。
- ・新たな損傷が発見された場合は、補修の実施について監督員と協議を行い決定すること。
- ・支保の固定、可動は現地確認のこと。
- ・ナットの緩みは、モルタル補修時に適宜締め付け直すこと。
- ・無収縮モルタルは、製造メーカーの仕様・施工方法に従い、必要に応じて交通規制や保温養生を行うこと。
- ・打込み式アンカーの位置は、施工可能な位置に設置することとし、指定するものではない。

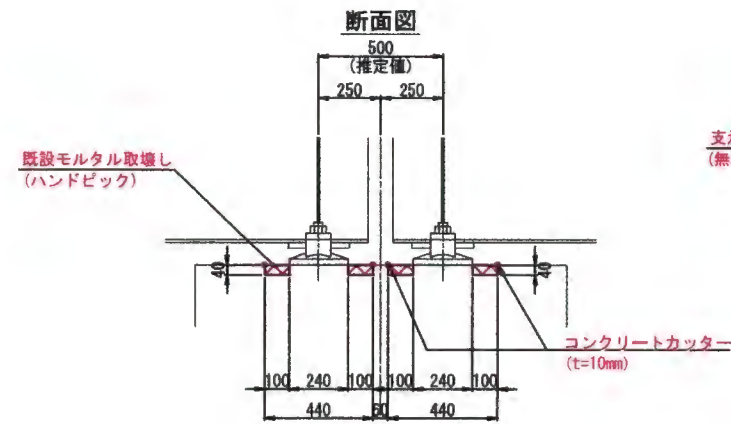
工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	支承補修図(1)
作成年月日	令和4年月日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

# 支承補修図(2)

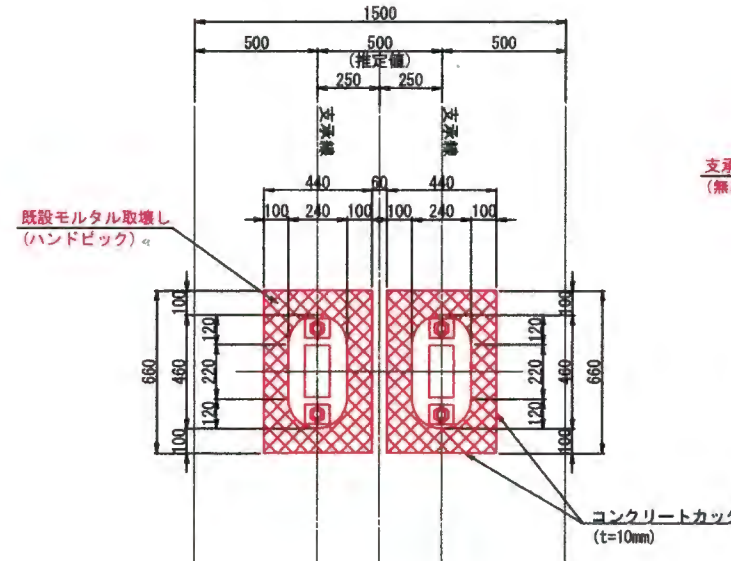
## 【第1富沢橋】

<P-1>

支承モルタル撤去 S=1:15



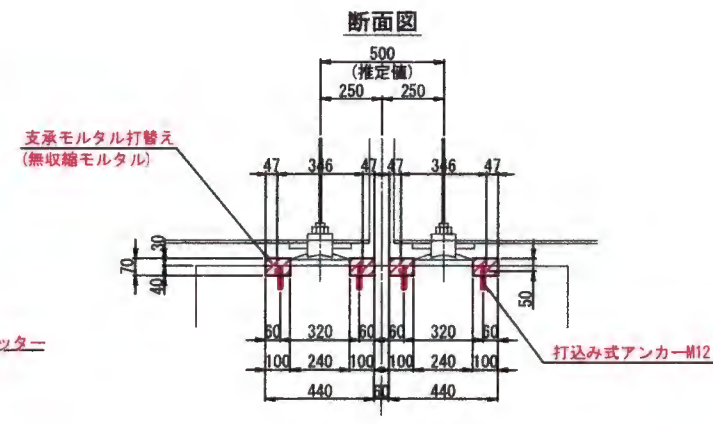
平面図



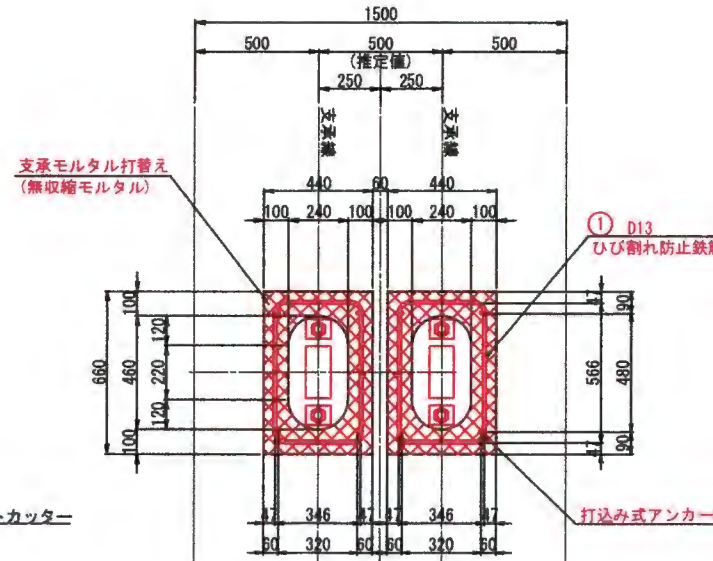
位置図 S=1:150

○ モルタル補修

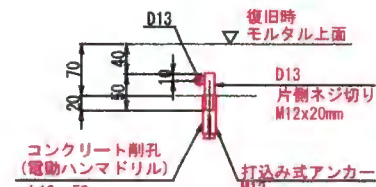
支承モルタル復旧 S=1:15



平面図

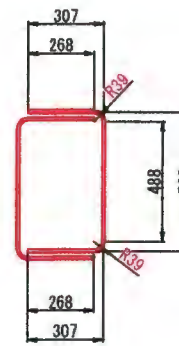


打込み式アンカー詳細図 S=1:5



鉄筋加工図  
エポキシ鉄筋

① 2-D13x1180 (SD345)

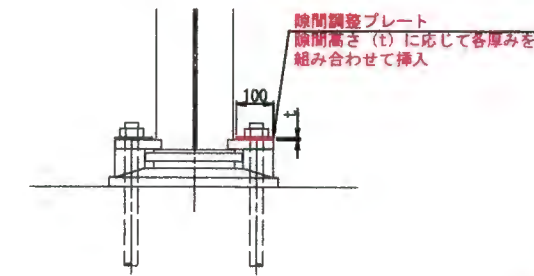


位置図 S=1:150

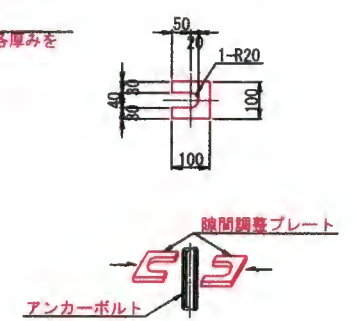
○ 調整プレート設置

調整プレート設置工 S=1:10  
P1-G3 (EP R側)

設置概要図



調整プレート詳細図



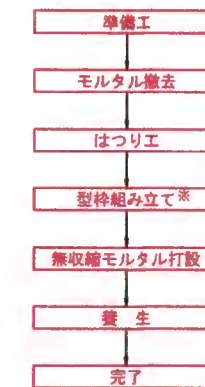
調整プレート (厚さ) 表

位置	t*	プレート組合せ(t)
P1-G3 (EP)	9	6.0+3.2

材質:SS材 (4.5mm以下はSPA材とする)

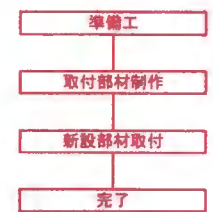
※調整プレート設置工は、プレートの製作前にナットの締めなおしを試みて、締め直しが困難な場合に施工する。また、プレート設置時において挟み込が困難などの施工状態により振動などでプレートが脱落する可能性がある場合は接着剤やクランプ等で脱落防止の処理を行うこと。

支承モルタル打替え工施工手順



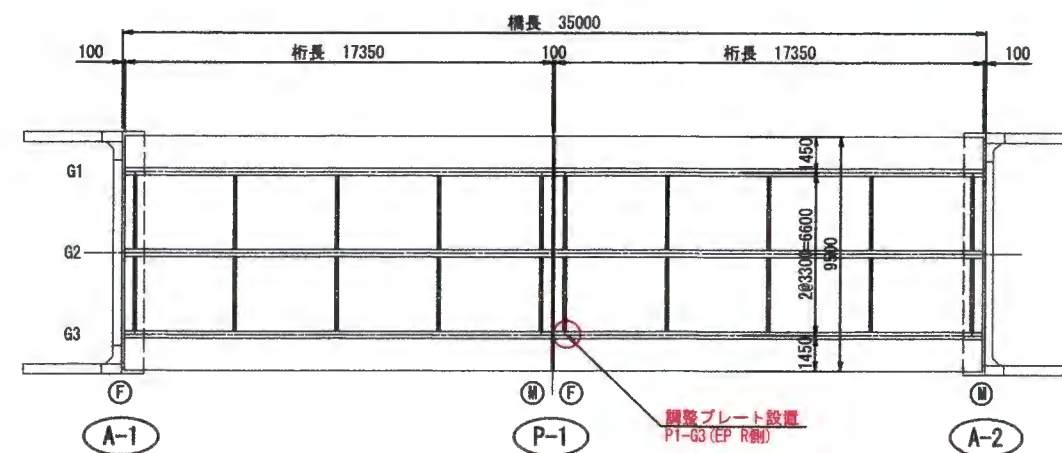
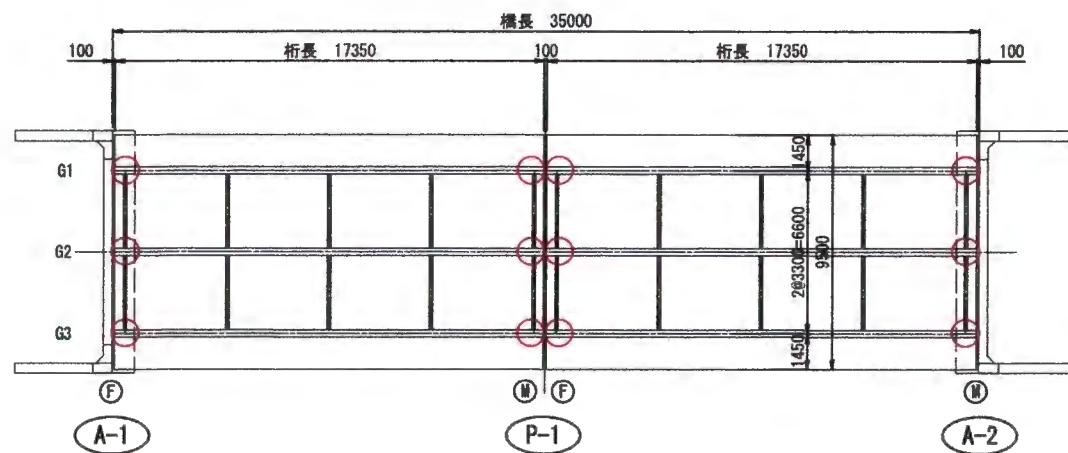
\*型枠組み立て前、腐食部分は除去すること。

調整プレート設置工 施工手順



### 特記事項

- ・詳細寸法は現地確認後決定とする。
- ・新たな損傷が発見された場合は、補修の実施について監督員と協議を行い決定すること。
- ・支保の固定、可動は現地確認のこと。
- ・ナットの締めは、モルタル補修時に適宜締め直すこと。
- ・無収縮モルタルは、製造メーカーの仕様・施工方法に従い、必要に応じて交通規制や保温養生を行うこと。
- ・打込み式アンカーの位置は、施工可能な位置に設置することとし、指定するものではない。

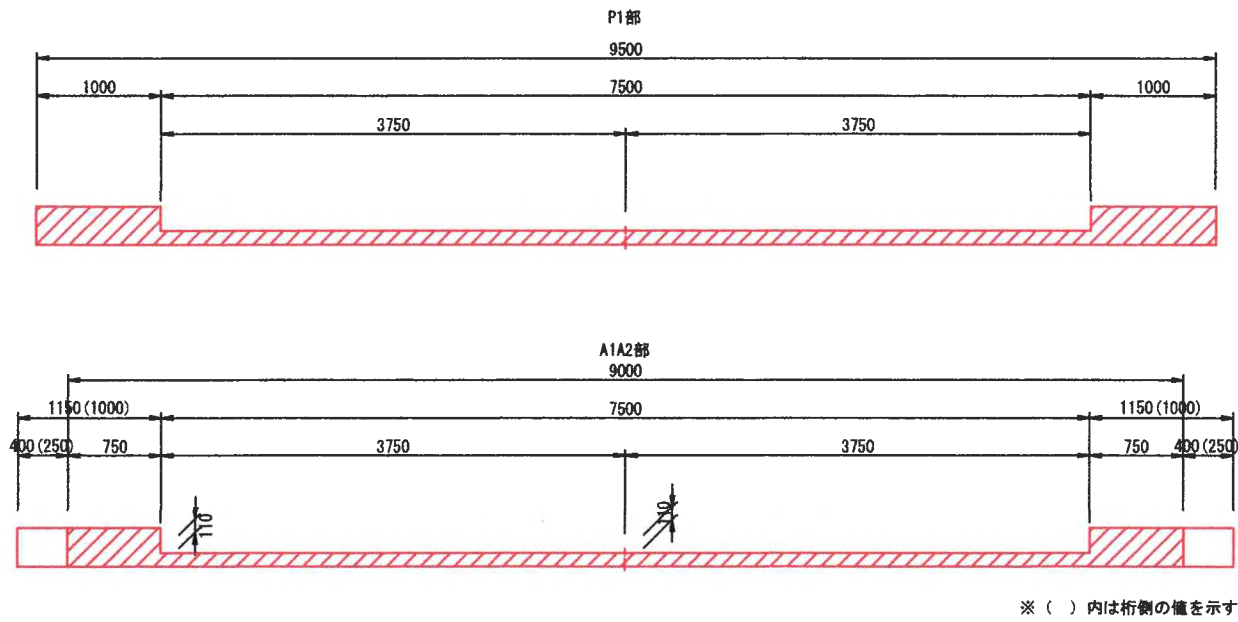


工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	支承補修図(2)
作成年月日	令和4年月日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

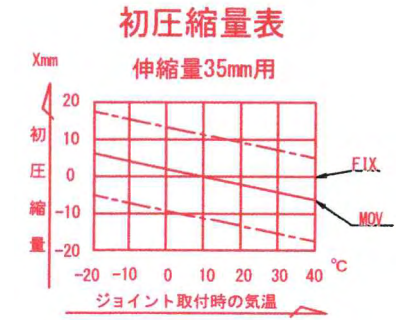
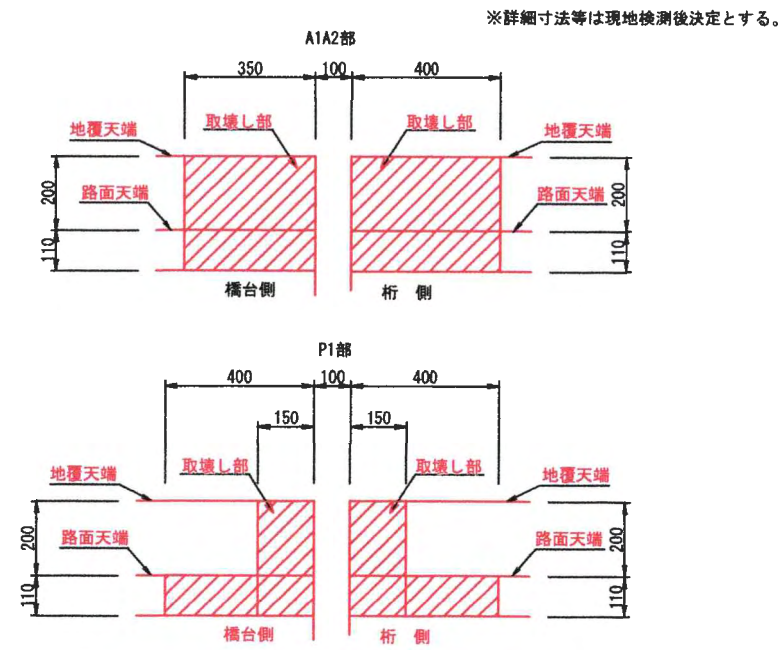
# 伸縮装置図(1)

## 【第1富沢橋】

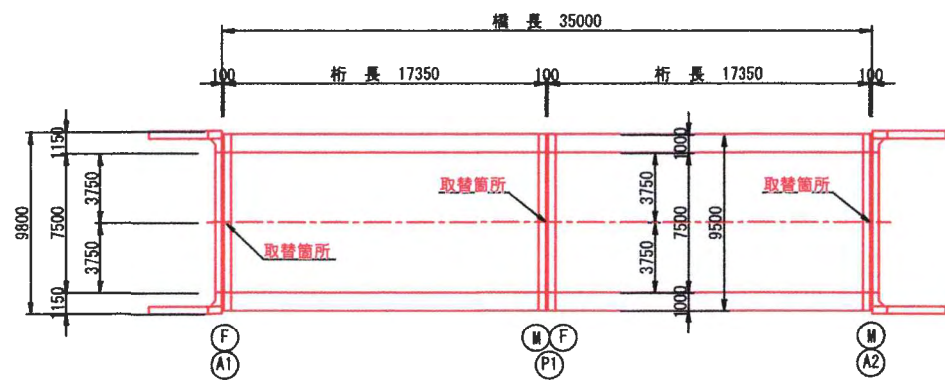
取壊し横断面図 S=1/30



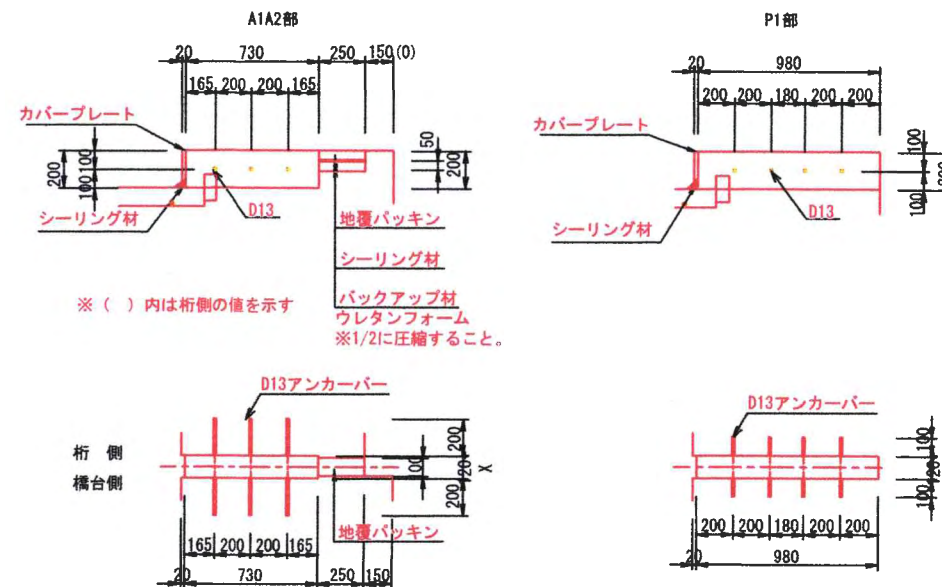
床版切欠き図 S=1/10



配置図 S=1/200



地覆詳細図 S=1/20

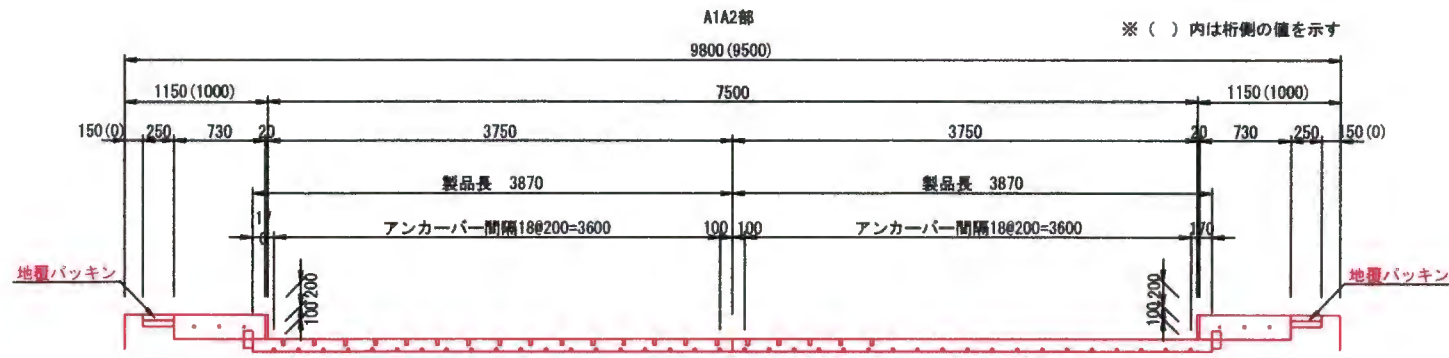


工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	伸縮装置図(1)
作成年月日	令和4年 月 日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

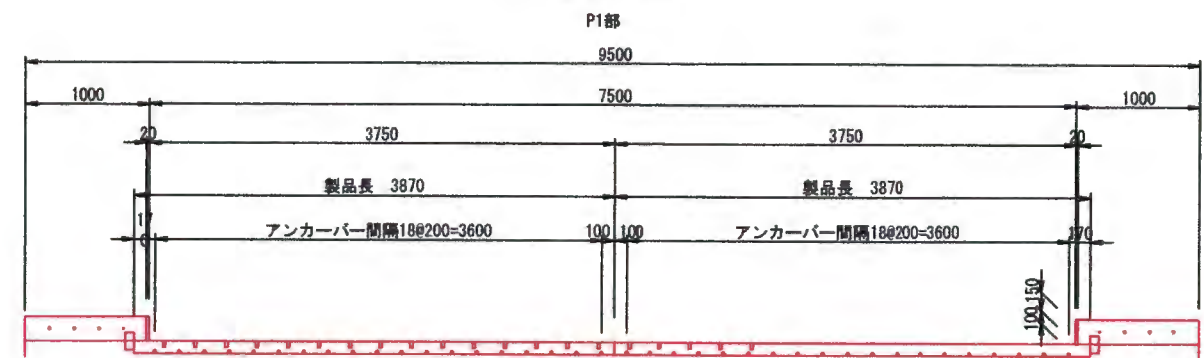
# 伸縮装置図(2)

## 【第1富沢橋】

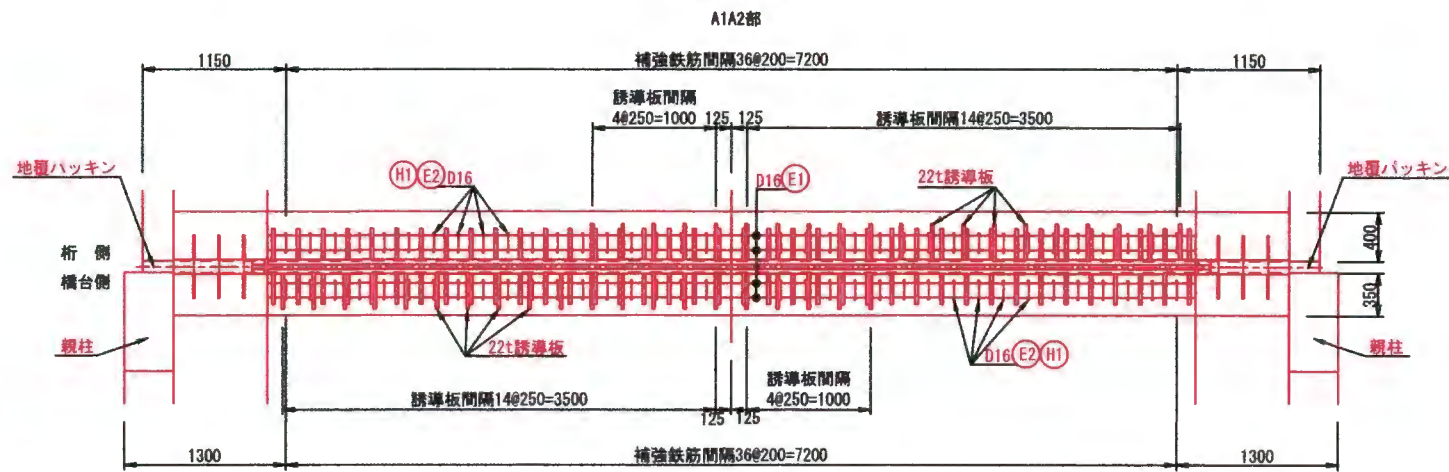
横断面図 S=1/30



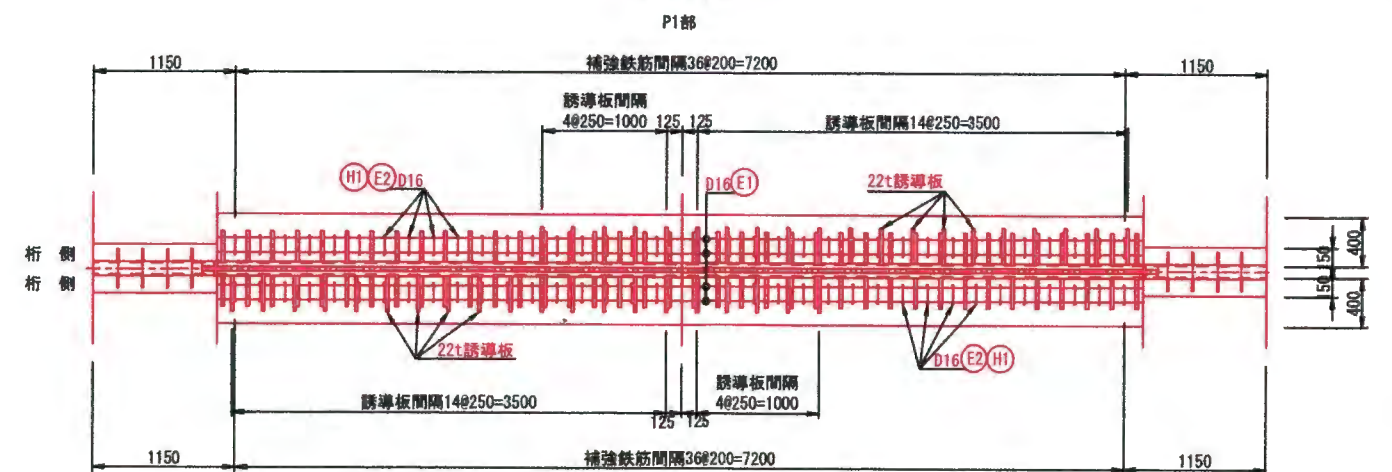
横断面図 S=1/30



平面図 S=1/30



平面図 S=1/30



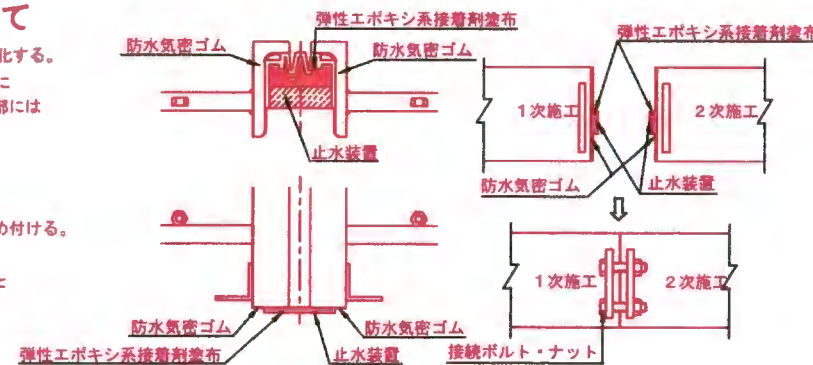
### 伸縮装置継手部

#### 伸縮装置の現場接続方法について

※伸縮装置納入時は車道センターライン（橋梁中心）より一体化する。  
 (接続部の両側には止水装置が止水ゴム（伸縮ゴム）の下部に取付けられています。また、緑石側・地覆側の伸縮装置端部には立上止水装置が取付けられています。)

1. 止水装置の全面、および立上止水装置の側板外側に弾性エポキシ系接着剤を塗布する。
2. 接続ボルトを双方の止水装置が圧着するまで左右均等に締め付ける。
3. 緑石・地覆伸縮装置を弾性エポキシ系接着剤を塗布した端部立上止水装置の上から、挟み込む様に取付け、地覆部と本体伸縮装置の接触面を点溶接した後、点溶接側の隙間部分にエポキシ系接着剤を塗布する。

※詳細は、製品付属の「施工要領書」を参照の事。

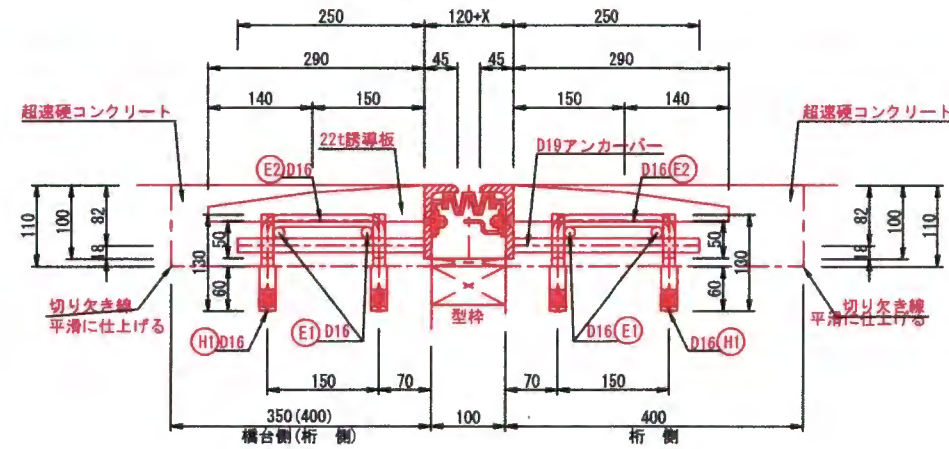


工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	伸縮装置図(2)
作成年月日	令和4年月日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

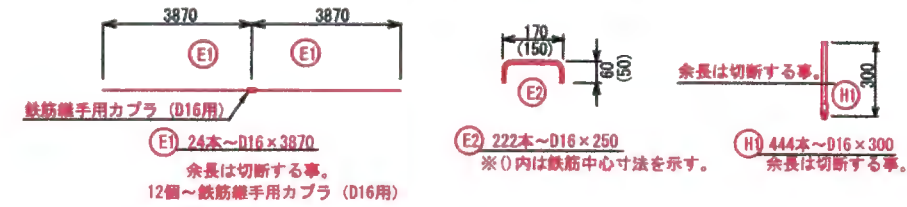
# 伸縮装置図(3) 【第1富沢橋】

取付断面図 S=1/5

伸縮量35mm用(改) ※0内はP1部の寸法を示す。



補強鉄筋加工図



伸縮装置材料表

型式	単尺	本数	長さ	適用	重量(平均値)
伸縮量35mm用(改)	3870	6	23220	車道部	41.5kg/m
"	730	4	2920	A1A2地覆部	
"	1000	2	2000	P1地覆部	
合計					28m140
誘導板	290×50×22t		120枚		
シーリング材	200ml×6カ所		1200ml	320ml/本 4本使用	
地覆パッキン	300×50×100		4個		

※地覆パッキン用のシーリング材・バックアップ材を含む

補強鉄筋材料表

適用	記号	断面	単尺	単重	1本当重量	員数	重量	適用
E1	φ D16	3870	1.560	6.037	24	144.9		
E2	φ D16	250	1.560	0.390	222	86.6		
H1	φ D16	300	---	---	444	---		差筋アンカー
総重量							231.5kg	
鉄筋継手用カブラ (D16用)							12	中央部E1鉄筋接続用

※上記、補強鉄筋は伸縮継手に含まない。現場手配とする

工事数量表

切 断(車道部t=50)	7500×2本×3ヶ所	45.00m
" (地覆部t=50)	750×2本×4ヶ所+1000×2本×2ヶ所	10.00m
合 計		55.00m
取 壊し(車道部t=110)	7500×110×350×2ヶ所+7500×110×400×4ヶ所	1.90m³
" (地覆部t=310)	750×310×350×4ヶ所+750×310×400×4ヶ所+1000×310×150×4ヶ所	0.88m³
合 計		2.78m³
既設伸縮装置撤去	9000×2ヶ所+9500×1ヶ所	27.50m
伸縮装置取付	(3870+730)×2×2ヶ所+(3870+1000)×2×1ヶ所	28.14m
超速硬コンクリート(車道部t=110)	7500×110×350×2ヶ所+7500×110×400×4ヶ所	1.90m³
" (地覆部t=310)	750×310×350×4ヶ所+750×310×400×4ヶ所+1000×310×150×4ヶ所	0.88m³
合 計		2.78m³

指定事項		
・当図面は参考図であり、特定のメーカーを指定するものではない。		
・北海道建設部土木工事共通仕様書の他に以下の仕様、性能を満足すること。		
・ただし、参考図と著しく異なるものとなる場合には、当該構造に影響がない事を確認の上使用する事。		
指定温度範囲	-20℃~+40℃(鋼橋)	
形 式	突合せ型伸縮装置	
設計移動量	温度変化時	12.5mm
	常 時	22.5mm
設置遊間量	100.0mm	
誘導板の設置範囲	センターラップ	

工事仕様

1. H1鉄筋は床版を切欠き後、打ち込むこと。
2. 鉄筋の余長は切断すること。
3. 補強鉄筋の接合部は全て現場溶接とする。
4. 補強鉄筋は全て現場手配とする。
5. 地覆の重なり部はシーリングすること。
6. Xの値は初圧縮量表を参照する事。

注 意 事 項

1. 施工関連諸寸法は、現地実測により決定する事。
2. 既設伸縮装置撤去の際は、床版を取り壊さないようにする事。
3. 工事発注後は現橋を十分確認の上、数量等を精査の事。

工 事 名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務		
図 面 名	伸縮装置図(3)		
作成年月日	令和4年 月 日		
縮 尺	図示	図面番号	/
会 社 名	HRS株式会社		
事務所名	余 市 町		

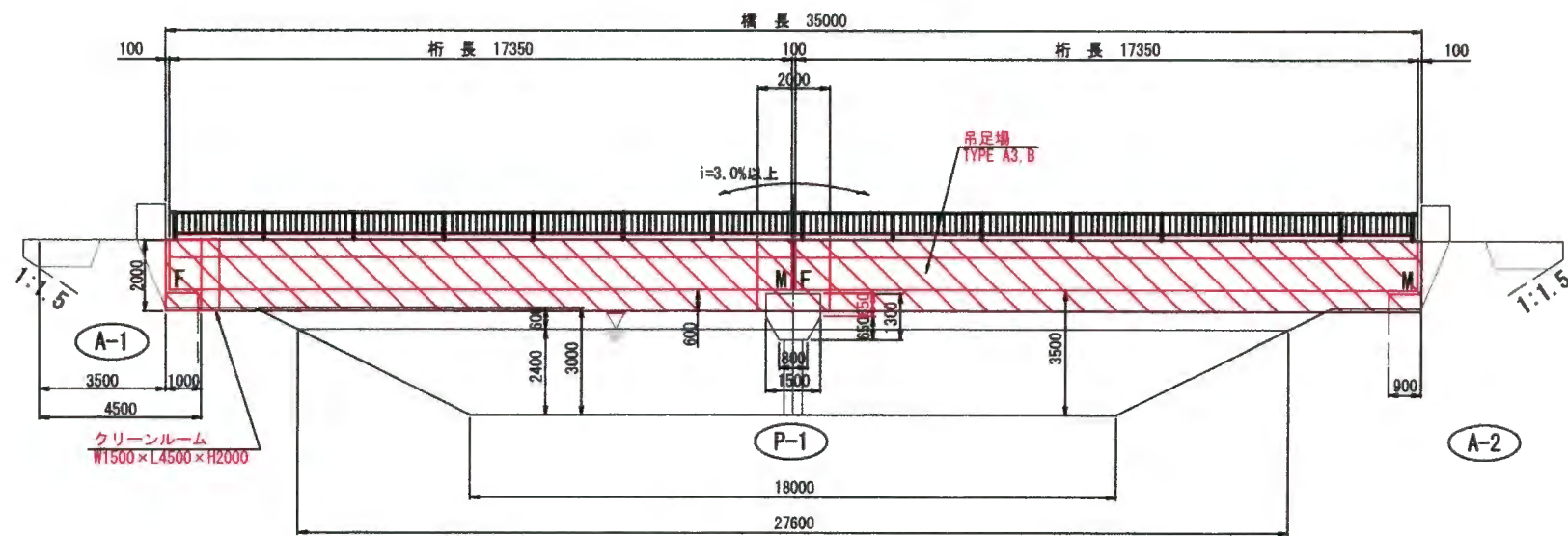
# 仮設図(1)(参考図)

## 【第1富沢橋】

### <上部工事足場工>

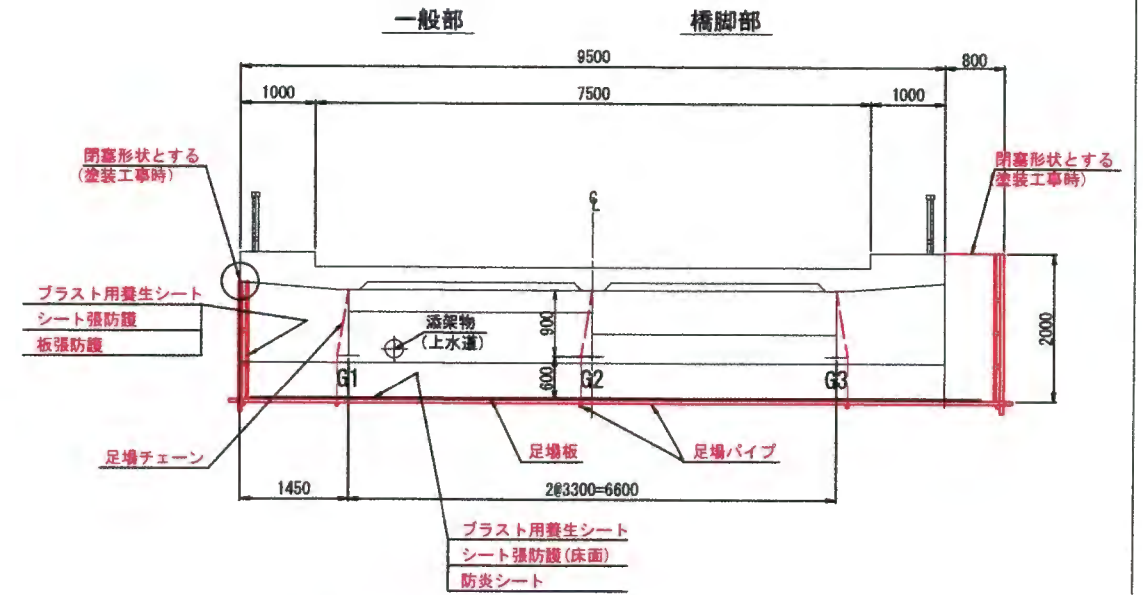
#### 側面図

S=1:100



#### 断面図

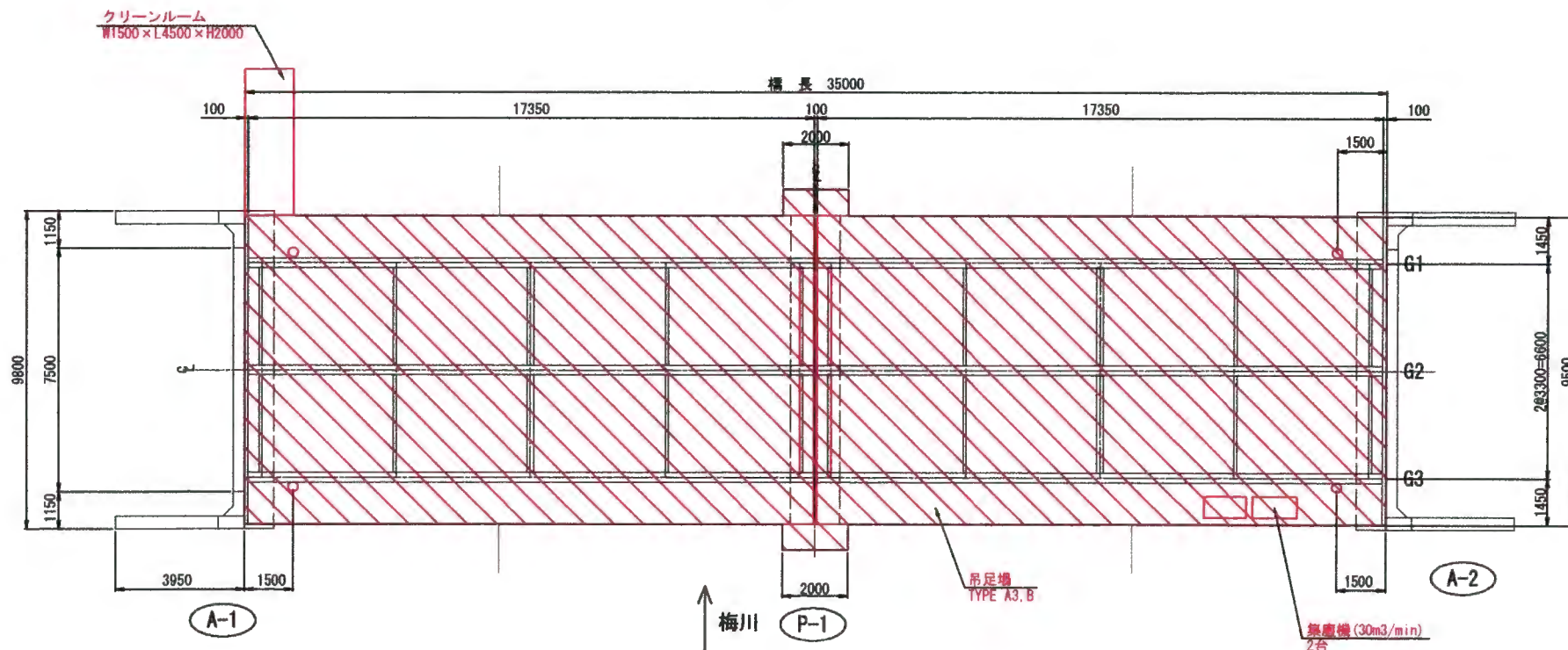
S=1:50



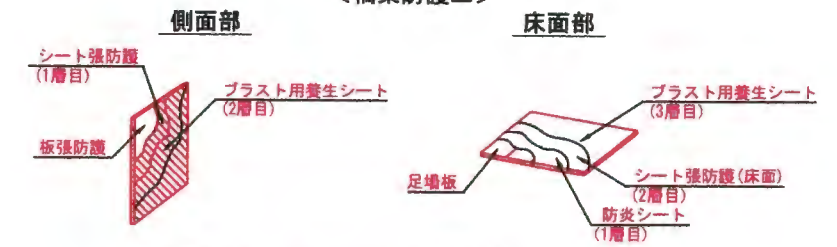
足場工の種類  
 TYPE A3 : 吊り機(防炎シート+シート張防護(床面)+プラスト用養生シート)  
 TYPE B : 朝顔+板張防護+シート張防護(プラスト用養生シート)

#### 平面図

S=1:100



#### <橋梁防護工>

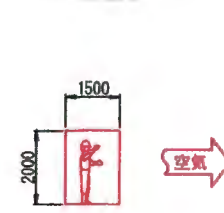


鉛等の有害物質を含む場合は以下の防護構成とする。  
 床面：足場板+防炎シート+シート張防護(床面)+プラスト用養生シート  
 朝顔：板張+シート張+プラスト用養生シート  
 プラスト用養生シートは、橋梁架設工事の積算P4-150、156で床面、朝顔部の計上しているため、小口部は実面積での追加計上とする。

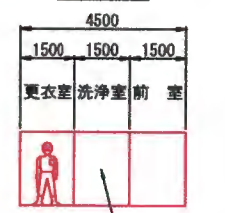
#### クリーンルーム模式図(案)

S=1:100

##### 断面図



##### 正面図



#### 特記事項

・当該図面は簡易計測による復元図であるため、施工前に現地実測確認を行うこと。

工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	仮設図(1)(参考図)
作成年月日	令和4年月日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町

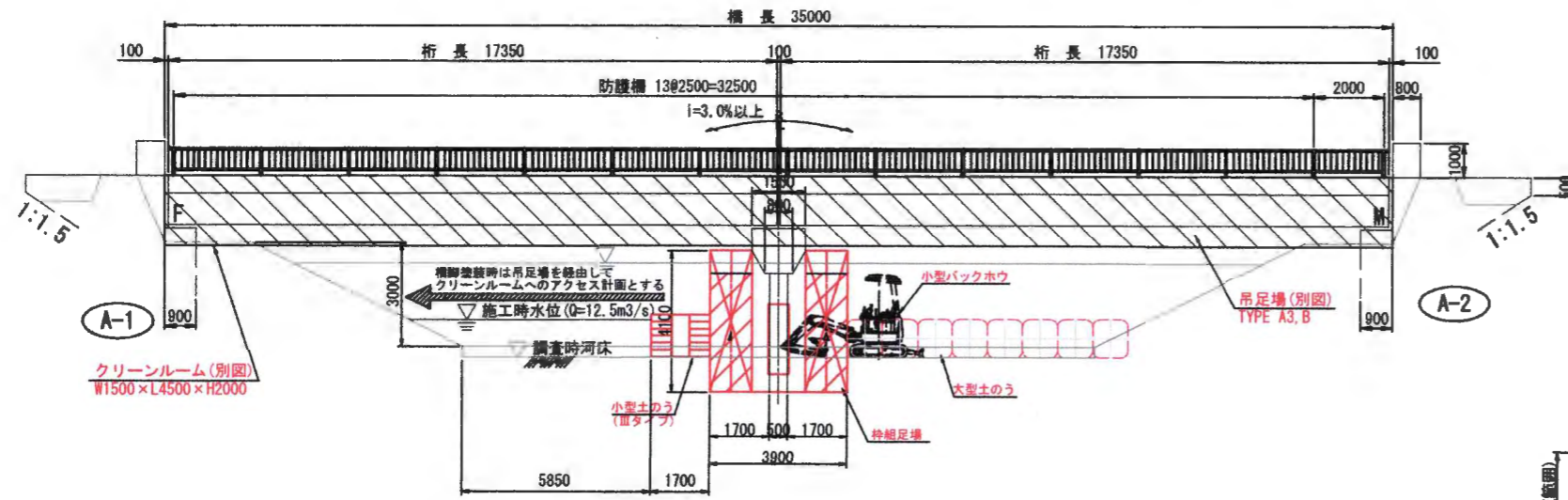
# 仮設図(2)(参考図)

## 【第1富沢橋】

### <橋脚工事足場工>

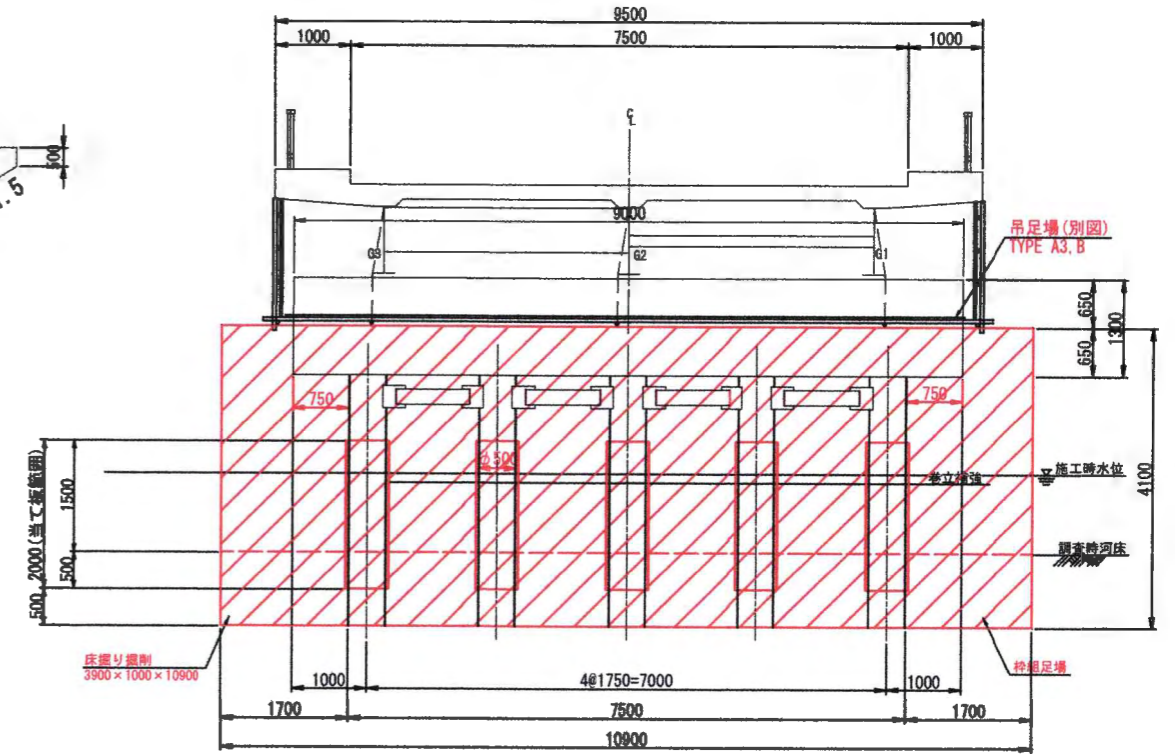
#### 側面図

S=1:100



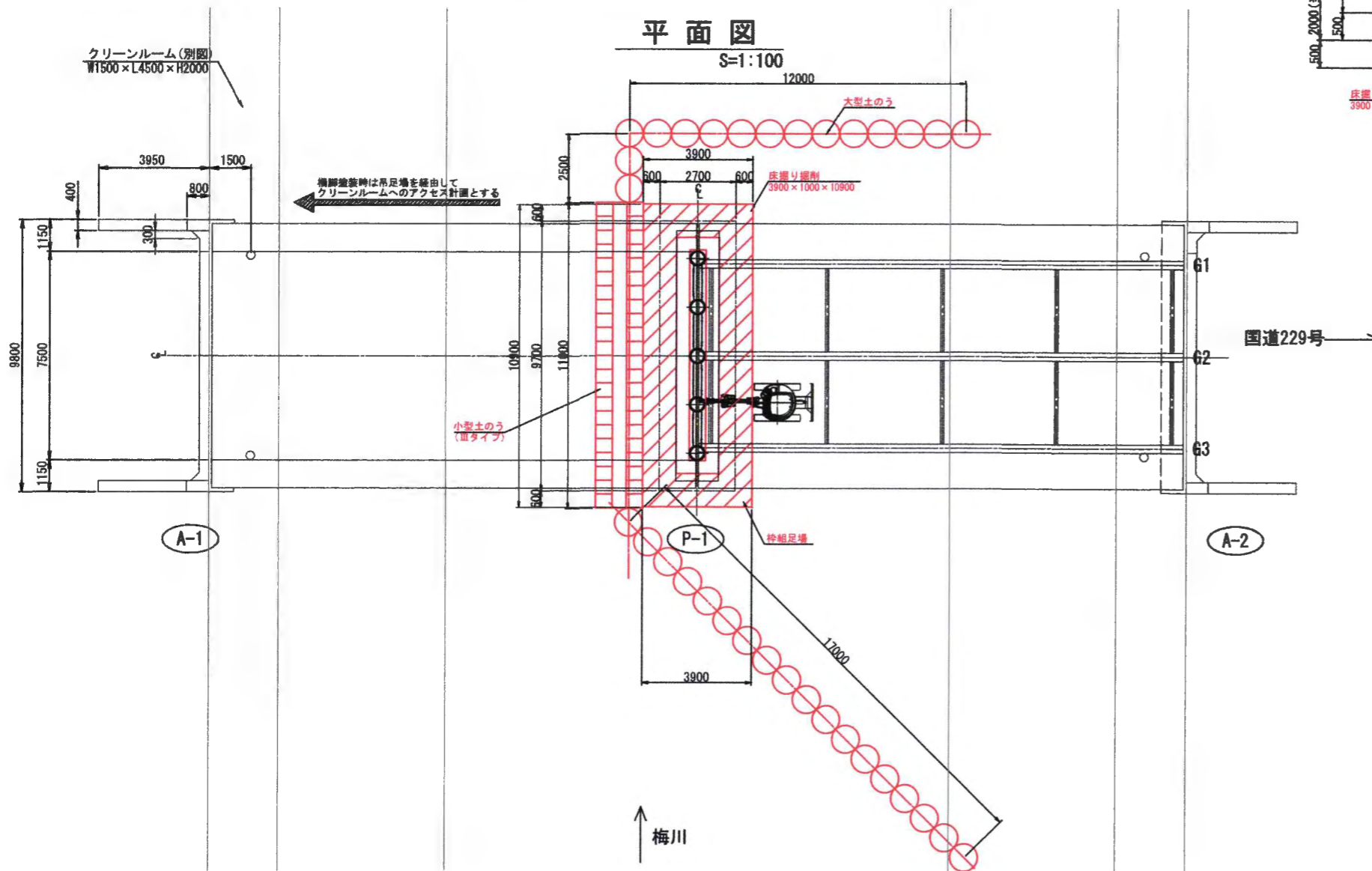
#### 断面図

S=1:50



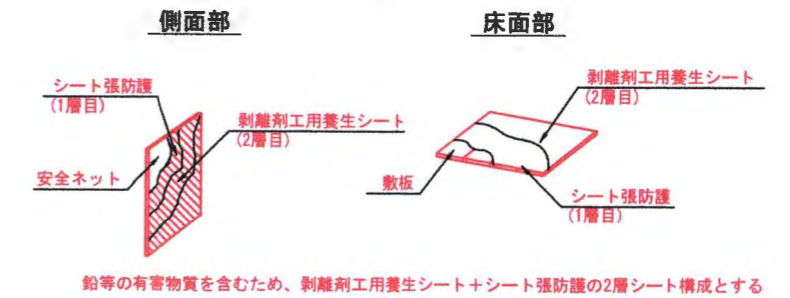
#### 平面図

S=1:100



足場工の種類  
TYPE G: 枠組足場(シート張防護×2面)

#### <橋梁防護工>



鉛等の有害物質を含むため、剥離剤工用養生シート+シート張防護の2層シート構成とする

#### 特記事項

・当該図面は簡易計測による復元図であるため、施工前に現地実測確認を行うこと。

工事名	令和3年度 橋梁補修調査設計業務
図面名	仮設図(2)(参考図)
作成年月日	令和4年月日
縮尺	図示 図面番号 /
会社名	HRS株式会社
事務所名	余市町